

3

139

Ⓜ

西洋
聞見
錄

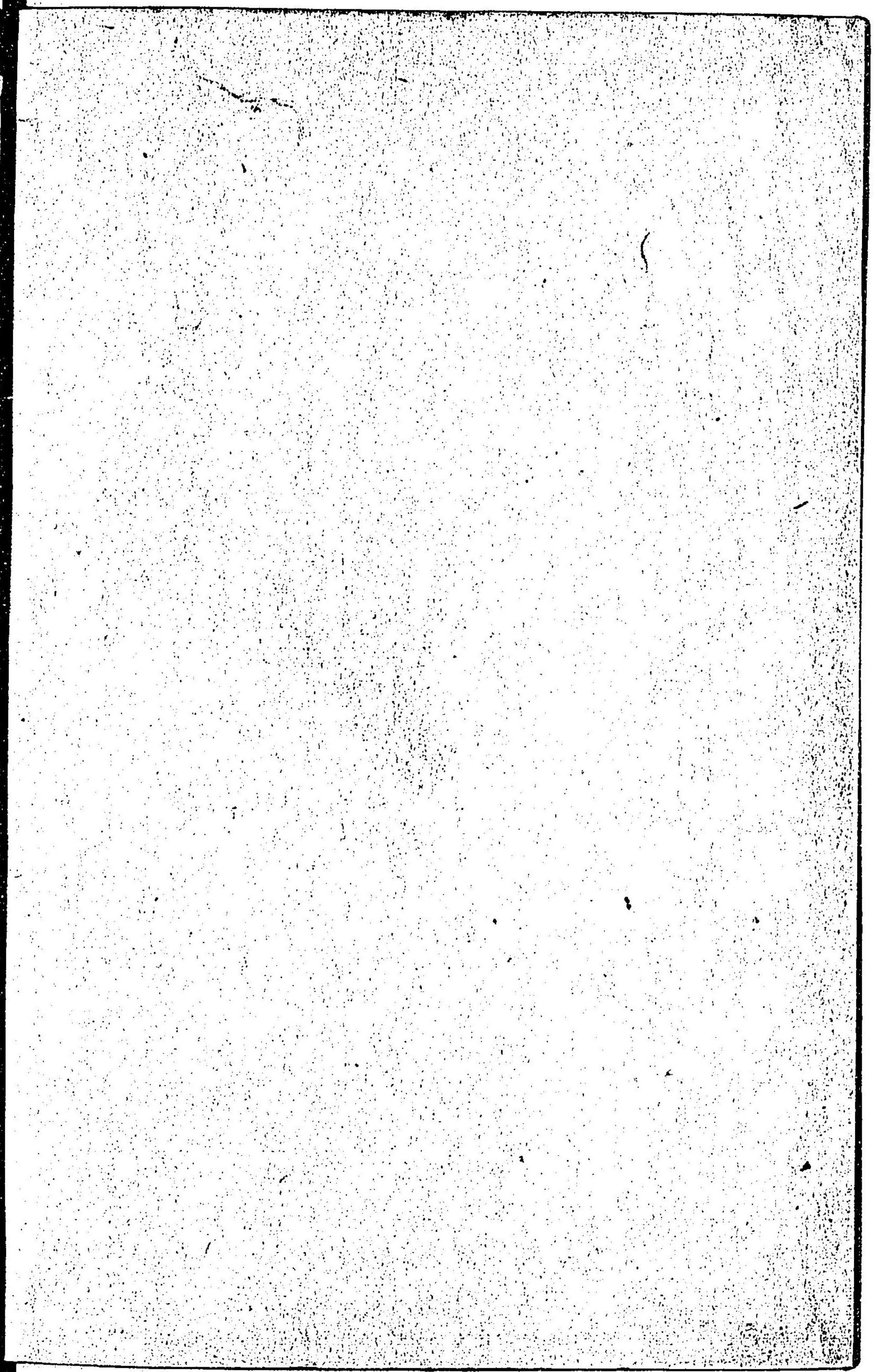
七
八

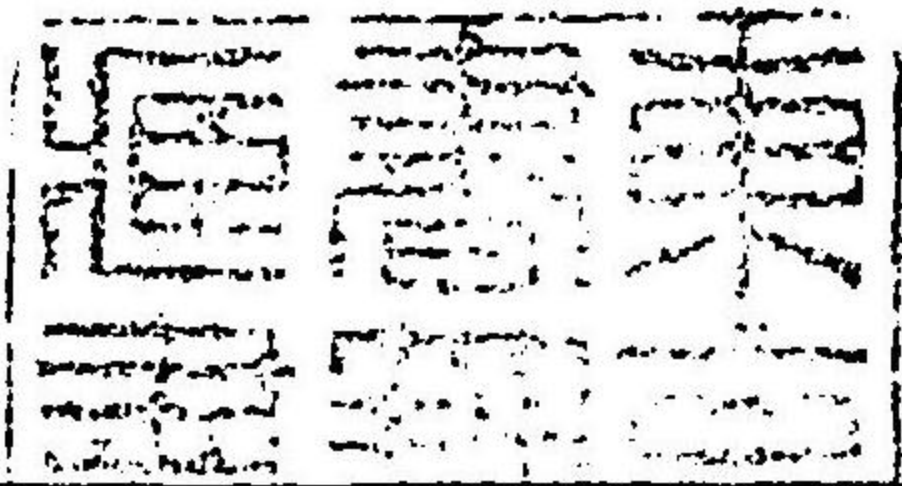
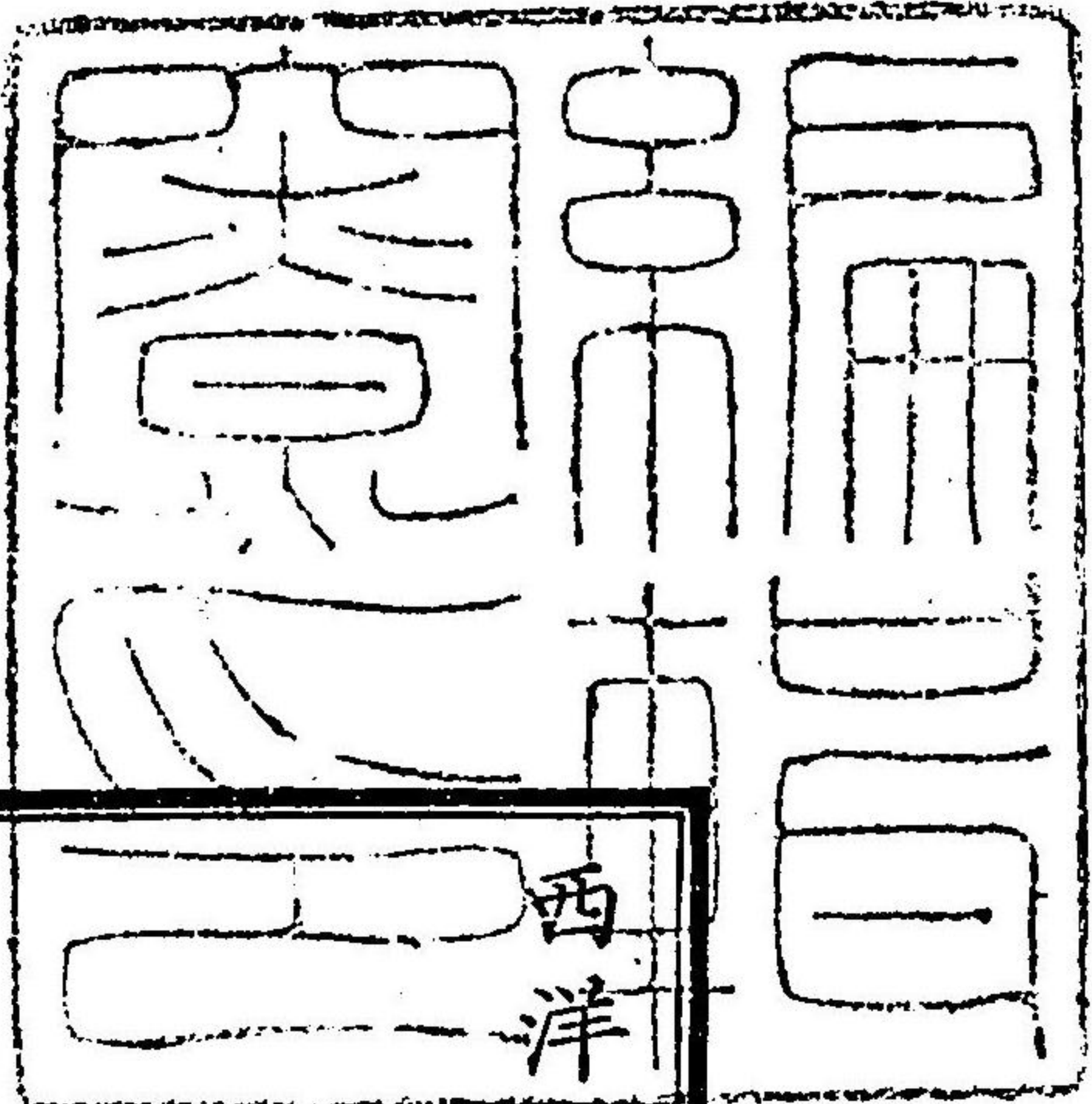
皇朝通志

東 京 圖 書 館				
一	三	四	三	
冊	九	架	函	類
号	号			

函
棚
号
九

共
八
本





西洋聞見録後編卷之二

廣島藩

村田 樞 丈夫纂述

西洋雜記

雜記

前編

舉凡所多ク

ハ英一國ノ事實ニ係ル

此編

ニ至テハ西洋諸邦ノ雜事ヲ聞見ニ

從テ漫録スルヲ以テ糸目汎然トシテ序次ナシ

畢竟要スルニ前編ニ遺漏スル所ヲ茲ニ附録シ

西洋聞見録後編卷之二

東洋館藏本

テ臥遊家ノ談柄ニ供スルノミ看官如シ紛雜ヲ
答ムルヲナケレバ幸甚

雜記

○洋人五大洲ノ中ニ就テモ亞細亞洲ヲ以テ
最モ尊重ス其故ハ彼カ聖經ニ所謂人種淵
源ノ地ニシテ神靈ノ國トスルモノ即地中
海ノ東邊ニシテ亞細亞洲内ニ在レバナリ
且孔子釋迦耶蘇ノ如キ聖賢輩出シ又火器
火藥針盤時規剖削術ノ如キ世間最要ノ器
械及技術ヲ發明シ按ズルニ此諸器ハ方今
洋人ノ製造ヲ以テ至巧

ナリトスト雖其原ハ悉ク漢人ノ發明ニ
出テ洋人ノ奇巧ナルヲ却テ遙ニ其右ニ
講ズルナリ米堅人丁石良所譯ノ格物入門
出ルニ嘗テ漢土磁石ノ用ニ迄テ西洋之
ヲ以テ南ノ世ニ始リ宋ノ世ニ造ルテ西
ヨリ流傳スルノ向ナリト獨ルニ此法漢土
國ニ於テ發明セリト雖漢人其以前ニ發
處ニ於テ漢製ヲ嚆矢トスルニ非ズト
明シク漢人ヲ以テ又邦人器ニ據ラズル
雖氏ノ地誌ニ諸器ヲ製スルニ其器却テ
ヲ紅ヲ以テ諸器ヲ製スルニ其器却テ
器ヲ用シテモ右ニ出ヅルモノ猶東
故ニ西洋諸器ノ人手ニ數賞スルヲ東
人ノ西諸器ノ加ニ土地膏腴產物豐饒
賞美スルガ如シ

○洋人歐羅巴洲ヲ以テ古世界ト稱シ亞米利
 加洲ヲ以テ新世界ト稱ス何ントナレバ亞
 米利加洲ハ後世即我カ明應元年ニ至テ檢
 出シタレバナリ北亞米利加洲内ニハ新
 字ヲ冠シタル處多キハ是ヲ以テナリ即新
 英國新蘇格蘭新約克英國ニ約克ト云ハ新
 著島等是ナリ

○千四百年代ニ當テ閣龍ナルモノゼノア
 一府ニ生レ歐羅巴洲以西ニ一大洲アル
 先見シ其府長ニ説テ新地檢出ノ為ニ征

行セントテ德應ズ乃葡萄牙ニ
 遊説スレ比國王ノ為ニ欺レタレハ更ニ西
 班牙ニ往キ女王ニ謁見シ之ヲ説諭シ舟師
 率テ西南ニ向テ發征シ千辛萬苦シテ竟
 ニ千四百九十二年十月ニ迄テ中亞米利加
 洲バハマス群島ノ中サンサルベードル島
 并ニキユバ島等ヲ檢出シ西班牙ニ歸リ此
 事ヲ告ゲ征行三回ニ抵テ亞米利加大洲ヲ
 檢出ス後五年ヲ經テ英王ヘンリー第七在
 之ヲ聞テセバスタアンカボット人名遣シ

亞米利加洲ヲ開拓セシム是ヲ亞米利加第
二ノ檢出トス始ノ閣龍キユバ島ヲ檢出セ
シハ閣龍誤リ認ノテ一大洲トシ是レ亞細
亞洲ノ印度ナリト思ヒシヨリ何ントナレ
巴、亞細亞、阿非利加ノ三洲ノミ西洋ニ知レ
タリシガ地球ハ圓体ナルモノユハ歐羅巴
洲ヨリ西南ニ往キ其極ニ至レバ此諸島ヲ名
バ印度ノ外ハアラザレバナリ叔斯ク閣龍ノ
ケテ西印度トハ云ヒシナリ叔斯ク閣龍ノ
檢出セシ地ナレバ今ノ亞米利加ヲコロ
ンビユスト名クバクシテアメリカト名ケシモ
ノハ此檢出ノ後七年ヲ經テアメリゴ
ノ人

ナルモノ亞米利加ニ往キ其地ノ記ヲ作り地
圖ヲ著セシガ一人アツテ其地圖ニアメリカ
ト記セシヨリ竟ニアメリカト呼慣レシナリ
○千四百九十七年ニ於テ葡萄牙人バヌー
デガマ、葡萄牙ヨリ航海シ喜望岬ヲ越エ始
テ亞細亞ニ至ルノ海路ヲ發見ス是ヲ西人
東洋ニ來ルノ權興トス實ニ亞米利加第二
ノ檢出ト同年ニシテ我カ明應七年ナリ葡
萄牙人竟ニ印度ヲ開港シ漸ク東方諸邦ヲ
蠶食ス此時ニ當テ葡萄牙、西班牙、和蘭ハ西

洋ニ於テ三大強國ニシテ西班牙ハ亞米利
加大洲ヲ檢出シ葡萄牙ハ印度ニ通商シ尋
テ又巴西南亞米利ヲ檢出シ和蘭又奧太利
ノ北部和蘭ト云フヲ檢出シ東西諸州ニ
航海シ勢極テ猖獗ナリ就中大ニ威ヲ東洋
諸邦ニ於テ振ハス故ニ昔時 本邦邊海
ニ於テ出沒スルモノハ多クハ此三國トハ
爾來氣運轉遷シテ英佛興盛ナリ英國船將
ク一ク千七百七十七年ヨリ同七十九年ニ
至ル迄三年ノ間坤輿ヲ三周シ專ラ南方ヲ

探索シ大ニ奧太利ヲ開拓シ此船將竟ニ東
南洋ノ島ヲウ
ノ為ニ殺サレ於テ土民佛蘭西モ亦多ク東方諸邦
ヲ攻メ取り竟ニ方今ノ勢ヲナセシナリ如
此昔日ノ盛ナルモノハ今日ハ衰フ蓋時運
ノ變遷スルナラン

○近年來英佛墨ノ航海家漸次ニ大南極國ヲ
檢出セリ其大サ復タ更ニ數大國ヲ生ズバ
キ程ノ大洲ナレ氏氣候沍寒ナルガ為ニ深
ク究ムルイ能ハスト云フ又千八百六十五
年ニ當テ米利堅人北海ニ於テ我カ二十里

四十マ 四方ノ小島ヲ發見シ米利堅直ニ之ヲ管轄スト云フ

○磁氣北ヲ指スノ理古ヨリ諸説紛然一定セズ蓋洋人航海シ北辰ヲ以テ方位ヲ定メシガ羅鍼ノ指ス所ノ北ハ地球ノ正北ニ非ズシテ各處ニ於テ地球ノ正北ト差異アリ故ニ洋人航海スルニハ羅鍼ノ南北ト地ノ正南正北トヲ比較シ其差異ヲ計リテ方向ヲ定ム故ニ如シ航海家羅鍼ヲ津梁トシ航海セバ大ナル失誤ヲ生ズベシ慎マザルベケ

シヤ其差異ヲ知ルテ諸般ノ航海書ニ出デ、航海術中ノ一科トス 日本ニテモ其差異アリ 日本ノ内各處ニ於テ其差異一様ナラスト雖モ大抵地ノ正北ヨリ羅針ノ西ニ倚ル一凡二度五十分ヨリ二度五十五分ナリ然レモ南極近キ地新西蘭ニ至テハ全ク正南ヲ指スト云フ又羅鍼指ス所ノ方向ハ年々或ハ時々ニ因テ異ナリ按ズルニ博物志ニ曰ク一千六百年間ニ當テ倫敦ニ於テ羅鍼ノ差ト地ノ正北ヨリ東ニ偏マ

一四度半ナリシが爾後六十年ニ至テ羅鍼
正北ヲ指シ漸次ニ西ニ偏倚シ一千八百十
八年ニ迄テ西ニ偏スル一竟ニ二十四度地
東ニ至リ此ヨリ漸次ニ原ノ東北ニ返ル
是ニ由テ之ヲ觀レバ地球中ニ含有セル磁
氣ヲ吸引スル所ノ電氣漸々遷移シ一周シ
テ復タ始ルナルベシト蓋一周ノ間ヲ四百
余載トス又曰ク華盛頓ニ在テハ地ノ正北
ヨリ羅鍼ノ北ニ偏スル一二度ヨリ三度ニ
至リ毎年西ニ偏スル一三分ト云フ

○海底ノ深キモ亦驚クベキ哉千八百五十二

年ニ於テ英人チャンハア西濱ノ名トシテ
ラダ南亞米利加ノ間ニ於テ海中ノ深サヲ
測リシニ九マイル半凡我カ四里ニ及ベリ
ト云フ

○五洲第一ノ高山ヲ印度ト吐番ヲ限界スル

所ノヒマレヤ山ルヒマレヤトハ雪上ト云ハ
聖山ト是ナリ其最モ高頂ヲマウントイバ
レストト云ヒ直線ノ高サニシテ海面ヨリ
高キ我カ八十三丁二間三萬ニシテ支

西洋開見録 後編卷之三 雜記 七 天民館藏本

那ノ昆侖山ヨリ高キ一我カ三十一丁四間
昆侖山ノ高サ一萬八千六百ヒトニシテ
ニシテ我カ五十一丁四間ニ當ルトニシテ
我カ富嶽ヨリ高キ一四十八丁四十五間
ノ高サ一萬二千四百五十ヒトニシテ
シテ我カ三十四丁三十五間ニ當ルトシ印
度人吐番人相往來スル所ノ山路ノ高サ我
カ五十丁一萬八千ニシテ兩土ノ國民常ニ
往來通商スト雖比年寒氣ノ為ニ斃ル
モノ少カラズ然レモ高サ五十丁ノ山上ニ
林木森然トシ三十三丁一萬二千ノ處ニ小
麥ヲ生スト云フ

○北亞米利加ノ冰島ニケイセルスト云ヘル
噴湯山アリ洵々トシテ白練ノ如キ熱湯ヲ
噴昇スル一凡我カ二十五間ニ當ルノ高サ
ニ至ルト云フ又南亞米利加洲内ニ在ル所
ノカトハチシ一山ハ世界第一ノ噴火山ニ
シテ平地ヨリ高キ一凡我カ一里半一萬八
千七百五火焰ノ噴昇スル一凡我カ八丁余
千ニシテ英人ボムホルトハ九七十里外
ニ在テ其噴鳴ヲ聞ケリト云フ
○地球上大湖多シト雖比亞細亞洲内カスピ

西洋開見録 後編卷之三 三十八 天官藏本

シアント云へル鹽湖ヲ以テ魁トス但シ凡
挺讓三百四十六里トス十二萬マ
イル方積

○亞米利加ハ大川ノ多キ五大洲ニ冠タリ

今其取モ大ナルモノヲ左ニ舉グ蓋其里數

ハ悉ク川源ヨリ測ルモノニ非スシテ舟楫

ノ通スヘキ間ヲ云フナリ

サント、ラウレンス河北亞凡九百里一千八百

ミシシッピ河北亞凡二千里四千マ
イル

マリノエ河南亞凡八百四十里千六

ナリ千六

アングストエ河南亞凡幅二里凡深七十

ラプラダ河南亞凡長百四十里積ノ船ヲ以

シルバ南亞凡九百五十里湖

アマゾン河南亞凡二千里四千マ

○南亞米利加洲巴西ハ椰子樹ノ巢穴ニシテ

百種ノ品類ヲ産スト云フ

○西洋諸邦ニ於テハ旅客ノ往來貨物ノ運送

ニ便ナルハ既ニ火輪車路アリ又人造溝

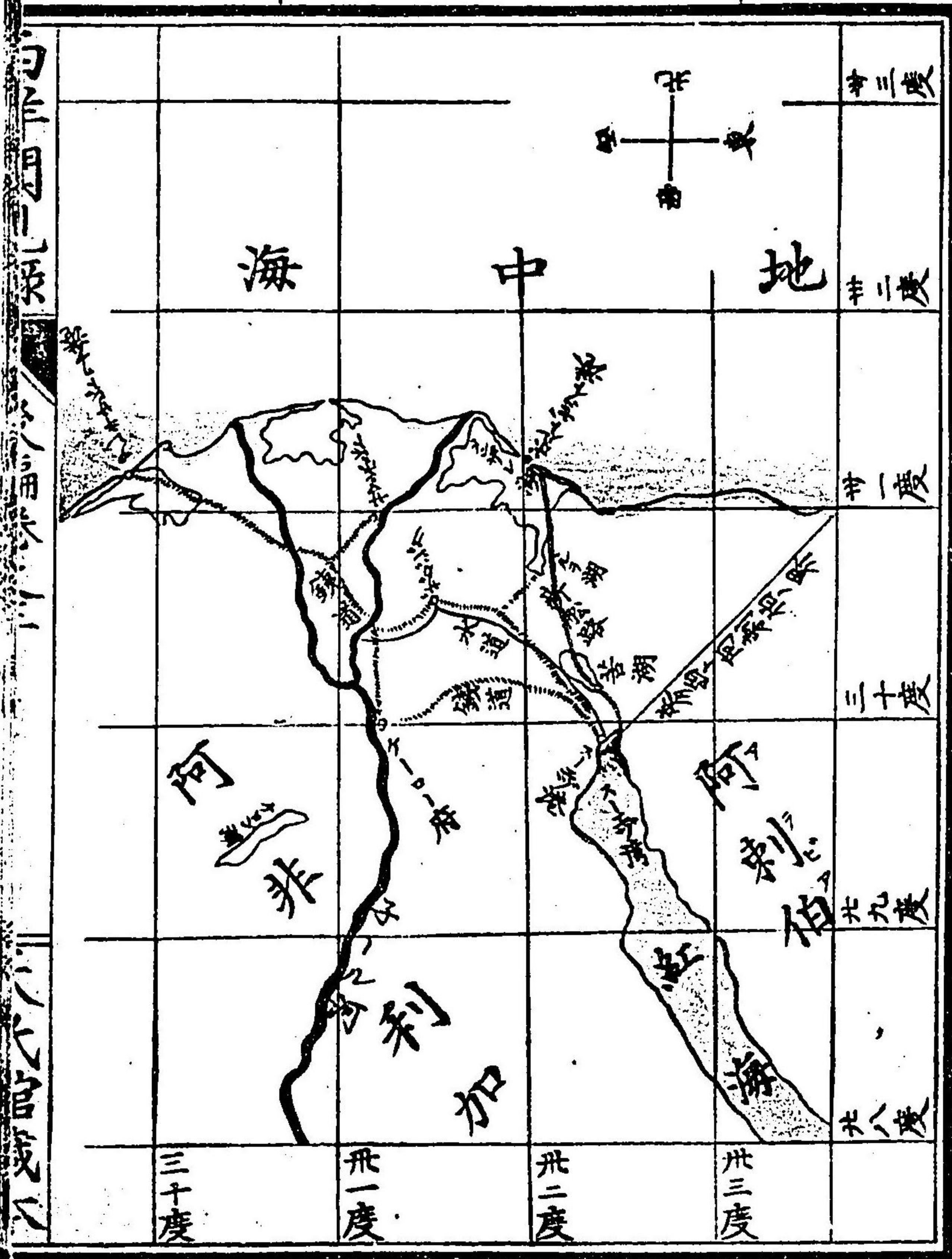
河アリテ舟楫ノ便ヲ極ム故ニ火輪車ニ可

ナラザレバ火輪船アリ就中英佛蘭ノ三國

ニ於テ尤モ盛ナリ千八百二十五年ニ當テ
和蘭北海ヨリ鑿チ開キ溝河ヲ造リ和蘭ノ
都アムステルダムト通ズ其間我カ二十五
里五十マニシテ幅二十間百二十深サ四間
二十四ナレバ七十四門ノ砲船ヲ通ズベシ
ト云フ但シ其總費七十五萬ポンド凡我カ
二十五ト云フ又アムステルダム府ハ溝河ヲ
萬兩
以テ市街ヲ連絡縱横シ九十箇ノ小嶼ヲナ
シ三百箇ノ橋梁ヲ架シテ我カ浪華ニ彷彿
タリ英國モ亦大溝河アル一既ニ前編ニ舉

ク但シ英國ニ於テ總溝河ノ長サ二千八百
マイルニシテ凡我一千四百里ニ當ル
佛國モ亦之ニ準ジテ溝河多シ其最モ盛ナ
ルハ合衆國トス總溝河ヲ合計スレバ其長
サ凡我カ二千五百余里五千マニシテ總費
三千二百萬ポンド余凡我カ九千ナレバ我
六百萬兩余
カ一里ニ付三萬八千四百兩ノ失費トス又溝
河ト錢道ト相接続シテ以テ往來運輸ニ便
ニシタル所アリヒラデルヒア地名、米利
堅ニ在リ
ヨリピッツポルグ同ノ間ハ凡我カ二百里
ニシテヒラデルヒアヨリ四十一里ノ間ヲ

新船之路圖



錢道トシ夫ヨリ八十六里ノ間ヲ溝河トシ
 夫ヨリ十八里半ノ間ヲ復タ錢道トシ夫ヨ
 リピツツボルグ逆五十二里ノ間ヲ復タ溝
 河トス其溝河ニ用ユル所ノ火船ハ極テ長
 クシテ溝河ヲ終リ錢道ニ達シ火船ノ用ヲ
 ナサミル時ハ之ヲ離分シテ三舟トナシ行
 客ハ火輪車ニ乗ジ貨物ハ船中ニ按排シ其
 舟ヲ火輪車後ニ固附シ火輪車ヲノ之ヲ曳
 カシム溝河ニ達スレバ又三舟ヲ合シテ一
 船トナシ溝河ニ浮マテ走ラシム蓋此法便

西洋圖見録
 後編卷之三
 雜記
 十
 丹民館藏本

ニシテ浮費ヲ省クト云フ○溝河ノ最モ壯
大ナルモノハスーエヅ地峽ノ溝河是レナ
リスーエヅ地峽トハ地中海ト紅海ヲ遮隔
スル所ノ地名ニシテ阿非利加洲ト亞刺伯
トノ境堺ヲ云フナリ此地峽ノ直徑僅々我
カ三十里許ニ過ギバト雖氏之ガ為ニ西洋
ト東洋トノ通路ヲ隔絶セラレ不得也喜望
岬外ヲ過ギザルヲ得ズシテ其不便ナルヲ
夥シケレバ往昔ヨリ之ヲ鑿開シ西洋ヨリ
東洋ニ航スル所ノ直路ヲ造ルノ議屢アリ

テ果サバリシ一洋史ニモ見エクリ千七百
九十八年ニ當テ拿破崙初世ノ麥西ニ在ル
時モ此舉ヲ謀リ測算司ヲ地中海ト紅海
トノ水平ヲ推測セシメシニ兩海ノ水面高
低ノ差ヒ凡我カ五間二尺五寸三十二
リト誤テ推測セシカバ行ハレズシテ止ム
明治二年二月十四日西曆千八百六十九
新聞ニ據ルニ千八百四十六年ヨリ同七年
ニ至ルノ間英佛墨併ニ麥西ノ四國盟約ヲ
立テ復タ此舉ヲ起サント謀リ各國ヨリ測

算司ヲ撰ビ遣シ兩海ノ潮度水平及ビ子
ル河ノ水平ヲ測量セシメシニ其差異太ダ
僅少ナレハ此舉大成スベキニ決セシト雖
未タ果サバリシガ既ニシテ千八百五十
四年ニ當テ佛國副參議官ノ子族ニシテヘ
ルジナント、デレセ、プスト云ヘル一士起リ
此舉ヲ果サンコトヲ思ヒタリ此士ハ深沉大
畧アル所ノ一豪傑ニシテ幼ヨリ西洋諸邦
ニ遊歷セシカバ麥西國副王ト交情殊ニ密
ナレバ副王エ此舉ヲ説諭セシニ副王大ニ

悦ビケレバ乃チ倫敦及ヒ巴黎斯ノ豪商ニ
遊説セシガ忽ナニシテ一會社成ル之ヲス
一エヅ地峽清河會社ス、コ、エ、ヅ、カ、ナ、ト、名
ツク會社ヨリ此佛士ヲ撰テ此舉ノ主宰ト
ナシ此上木ヲ指揮セシム但シ此地熱國ニ
シテ且飲水ニ乏シケレバ乃チ先ツ圖ノ如
クス一エヅ地ヨリ、ガ、ジ、グ、ニ、至、ル、迄、凡
我カ二十五里五、十、マ、ノ間溝渠ヲ造リ子
ル河ヲ導テ飲水ヲ得セシメヨリ此地
峽ノ内地イスノリアノ如キハ寥々タル一

寒村ナリシガ漸次ニ人口蕃殖シ一小市ト
ナリシ故ニ乃チ土民ヲ雇ヒ牛馬駱駝驢馬
ヲ用ヰテ土石ヲ運輸セシノ種々ノ奇巧ナ
ル火輪機ヲ發見シテ地ヲ鑿リ或ハ河ヲ撈
ハシム蓋先ツ其北岸地中海ニ於テポルト
セツトト云ハル處ニ一港ヲ建テ碇泊場ヲ
築キ置キ其南岸ハ紅海ニシテスーエヅト
云ハル一港アレハ其傍ヨリ波戸ヲ築キ以
テ南北ノ岸ヨリ鑿テ以テ内地エ入り從テ
鑿チ從テ入り湖ヨリ湖ニ傳ヘ數年ヲ經テ

竟ニ一大ノ溝河ヲ造リ兩海ヲ開キ通シ一
ノ新船路ヲ開ク其長サ凡我カ四十九里半
九十九ニシテ火船ナレハ西洋ノ十四時我
マイハルニシテ以テ過キ行クベシ深サ凡我カ
晝夜平分ヲ以テ過キ行クベシ深サ凡我カ
ノ七時
四間二尺ニ十六幅ハ處ニ因テ異ナリト雖
凡岸上ヲ凡我カ四十一間二百四十河底ヲ
凡我カ三十九間四尺二百三十トス但シ此
地峽ノ間ニ五小湖アリテ其五湖ノ直徑ヲ合
計スレハ凡我カ三十里六十トナルベケ
レバ僅ニ三分之一ヲ陸地トスルヲ以テ鑿

ルベキ地面ハ僅少ニ似タレ正海面ト湖面ト高低一ナラザレバ尚復タ鑿ラザルヲ得
 不抑モ此地ハ麥西ニ屬スルヲ以テ英佛二
 國ヨリ麥西國ト條約ヲ定ムルヲ左々如シ
 一此土木畢テ以來九十九年間ハ此地會社
 ノ所轄ニ屬シ港税、地稅等一切會社ノ利
 益トナリテ爾後ハ麥西ニ讓ルベシ
 一每歲利得百ニ付十五ハ例スルニ百兩ニ
 會社ヨリ麥西國ニ納ムベシ
 一港税ハ何國ノ船ニ拘ラス一様ノ港税ヲ

課收シ英佛ノ船タリトモ斟酌アルベカ
 ラズ
 一此土功ニ付此地ノ木石等必用ノ品ハ會
 社ヨリ之ヲ取用ユルヲ勝手タルベシ
 以上

蓋此大舉十余年間ノ星霜ヲ經竟ニ我が明
 治二年二月ニ迄テ大成シ英國ノ兵船始テ
 通航シテ以來萬船ノ往來絡繹トシテ絶ニ
 不萬國其便益ヲ得ルヲ淺尠ナラズ此新船
 路開ケザルノ以前ハ西洋旅案内ニ云ヘル

如ク西洋ヨリ地中海ヲ經テ來ルモノハ地中海ノ南岸アレキサンドリアニ着シ夫ヨリ圖ノ如ク火輪車ヲ以テ九我カ百里ノ地ヲ一日ニ走リス。エヅニ來リ又東邦ヨリ西洋エ趣クモノハストエヅヨリ火輪車ヲ以テアレキサンドリアニ達シ是ヨリ地中海ヲ越エテ佛國ノ北岸マルセルニ着スルアリ或ハ地中海ヨリジブラールタル海門ヲ過ギテ西洋ニ出ヅルアリ是以テス。エヅト印度トノ間毎月二度ノ飛船往來ス

レハ急務ニ當テハ此路ヲ取リシヲ以テ此ス。エヅ港ハ東洋ト西洋トノ咽喉ニ當リ稍繁華ト稱スト雖此地熱國ニシテ飲水食料ニ乏シキヲ以テケイロー麥西國ヨリノ都府ヨリ運輸セザルヲ得ザレバ極テ不便ナリシガ近世水道ヲ造リ飲水ヲ引クヲ以テ萬船麁集シ民口日ニ繁殖シ其始ノ僅ニ四千人許ノ人民ナリシガ近來ニ至リ二萬五千人ニ及ビ且本年ヨリ新海路開クルヲ以テ喜望岬外ヲ過航スルモノナクシテ此港竟ニ千

載不易ノ要地トナルベシト云フ今茲ニ此
地ノ地形ヲ圖寫シテ豪圖ノ梗概ヲ示ス○
又人造溝河ノ東方ニ於テ最モ長大宏壯ニ
シテ西人ヲ愕然タラシムルモノハ清國ノ
運河是レナリ此河ニ因テ食糧運輸ノ便ヲ
得ルヲ以テ此名アリボン氏ガ地誌ニ據ル
ニ此大河ハ清國ノ全土ヲ南ヨリ北ニ鑿開
シ京城ノ地ト豊饒トル府縣トノ往來ヲ便
ニシ旁ヲ河水ヲ導キ汎濫ノ憂ヲ拒ク為ニ
造リシモノニテ其南部ハ千八百年代ニ成

リ北部ハ元ノ世ニ當テ忽必烈之ヲ造ル蓋
其源ハ天津ヨリ起リ南ニ向ヒ山東省ヲ過
キ黄河港ニ抵リ再ビ南ニ向ヒ江蘇省ヲ過
キ揚子江ニ抵リ南行シテ浙江省杭州府ニ
至テ止ル其長サ直線ニスレバ七百マイル
凡我カ三ニ及グバシト云フ因ニ云フ英人
百五十里ニ於テ最モ誇ルト雖氏此大土
豪大ノ事業ニ於テ最モ誇ルト雖氏此大土
功及ビ萬里ノ長城ニハ頗ル驚愕セシモノ
ト見エテ驚嘆スルヲ殊ニ甚シボン氏ガ地
誌ニ長城ノ事ヲ記シテ曰ク長城ハ紀元前

二百十三年ニ當テ秦ノ始皇帝之ヲ築キ北
部ノ境標トナシ以テ匈奴ヲ禦クカ為ニシ
テ其城山海關ヨリ起リ直隸山西ノ兩省ニ
跨リ黄河ヲ越エテ西シ復テ陝西甘肅ノ兩
省ニ跨リ北方嘉裕關ニ至リ茫々タル積漠
中ニ抵ル止ル其長サ千五百マイル凡我カ
七百五
里ニシテ城壁ハ石ヲ以テ礎トナシ土ヲ以
テ壁心トシ其外ヲ圍ムニ石或ハ磚ヲ以テ
ス壁ノ高サ一ナラザレバ大抵二十ヒート
凡我カ三
厚サ壁頂ヲ十五ヒート凡我カ二
間三尺

壁基ヲ二十五ヒート凡我カ四
間一尺トシ三百ヒ
ート凡我カ
五十間毎ニ塞關ヲ建テ戍兵ヲ置ク方
今處々頽破スト雖モ最モ壯觀ニシテ宇内
最大ノ偉業タルヲ論ナシ然レバ金城千仞
果メ恃ムニ足ルカ千六百十八年ニ當テ北
方ノ強敵之ヲ破入り方今ノ清朝ヲ建テタ
リト

○五大洲中最大ノ金礦山ヲ米利堅ノ葉方西
斯哥英屬北亞米利加ノ加拿他及填太利
ビクトリアアトシ銀礦山ヲ墨西哥トス但シ

塊太利并ニ乘方西斯哥ヨリ英國エノミ每
 歳入港スル所ノ金礦ノ價二千萬ポンド凡我
 カ六千 墨西哥ヨリ每歳入港スル所ノ銀礦我
 萬兩ノ價一千萬ポンド凡我ト云フ所謂乘
 方西斯哥ハ加利福尼ノ海口ニシテ加利福
 尼ハ本ト墨西哥ニ屬セシ地ナリシガ墨西
 哥合衆國ト構兵スル一二年ニ及ビ墨西哥
 ヨリ加利福尼ノ地ヲ割キ合衆國エ與ヘテ
 始テ和ヲ講ゼシガ未ダ一月ナラズシテ乘
 方西斯哥ニ於テ大金坑ヲ發見セシカバ墨

西哥之ヲ悔ユルト雖此盟議既ニ成テ後ノ
 一ナレバ之ヲ如何トモスル一能ハズ合衆
 國ハ漸次ニ之ノ開キ五洲第一ノ金坑ヲ得
 竟ニ方今ノ強盛ヲ致セリ又乘方西斯哥ハ
 加利福尼ノ一海口ナレハ居民寥々タル地
 ナリシガ金坑開ケシ以來四方ノ民輻集シ
 貿易繁昌シ家屋美潔ニシテ市街整列シ竟
 ニ五大洲盛港ノ一トナレリ其市屋ノ美潔
 ナル所以ハ十七年間毎歳全街ヲ燒失シ家
 屋ヲ一新スルヲ以テナリ蓋此地ノ家屋始

メ木造ナリシガ此年火災ニ遇フヲ以テ一
且鐵造ニ改メ鉄壁鐵柱ヲ以テ建築セシガ
火災猶止マザルヲ以テ竟ニ方今ノ如ク石
造トナセシト云フ但シ金坑ノ地面長サ凡
我カ百五十里三百マ幅凡我カ二十里四十
川ニシテ千八百四十九年ヨリ同五十一年
ニ至ル迄三年ノ間掘リ出ス所ノ金高九我
カ九千萬兩三千万ニシテ毎歲掘リ出ス所
ノ金高九我カ三千万兩一千万トス銀産モ
凡之ニ準ス然レモ金銀共ニ近年大ニ減ス

ト云フ又加利福尼ニ用ユル所ノ礦物破碎
ノ為ニ備ヘタル工場百三十二ヶ處トス
○加拿他ハ北亞米利加ニ在ル所ノ英ノ屬
部ニシテ七十三ヶ處ノ金礦山アリテ之ニ
關ル所ノ職人七百人トス千八百六十八年
ニ當テ正月ヨリ三月迄得ル所ノ金高凡我
カ二百〇七萬二千八百六十五兩六十九萬
ト云フト云フ又加拿他ノ内モントリール
ト云ハル處ハ草木繁秀シ風景幽美ニシテ
加拿他ノ草花園トモ稱スル程ノ地ナリ此

ニ宏壯ナル羅馬教ノ寺堂アリ凡一萬一千人
ヲ容ルベシト云フ又同處ニホールスシユ
ウ、ホールト云ヘル瀑布アリ馬齒瀑ノ義ニ
シテ形ヲ以テ命セシモノナリ其幅九我カ
五丁千八百高廿九我カ二十六間二尺十百五
トナリ此地其余名高キ瀑布多シ○ビク
トリアハ塊太利ノ一部ナリ千八百五十二
年今ヲ距ルニ當テハルクレーフスト云
ヘル英人此處ニ於テ焙テ金礦ヲ發見シ
同年ヨリ五十九年ニ迄挖得ル所ノ金

高凡我カ三千零四十一億一萬五千四百八
十四兩一千八百二十三億七萬一トス其餘此洲
ニ於テ金坑多シト雖此ビクトリアヲ以
テ魁トス叔此奧太利ノ内シデニハ英國
ノ船將クーク氏始テ發見セシ地ナリシガ
クーク氏此海濱ニ於テ千種萬類ノ奇花異
草ヲ見シカバ此海濱ニボネー、バーノ名
ヲ下ダセリ蓋シ樂園港ノ義ナリ
○千八百六十五年ノ新聞紙ニ曰ク土耳其國
ニハ五千五百萬フランクス凡我カ六百八
十七萬五千兩

ヲ佛國ヨリ借用シ限ルニ三年ヲ以テシ一年ノ利息十八分ニシテ三年ノ利金凡我カ三十七萬一千二百三十兩ノ高ニ上ルナリ

○和蘭國內レイデン名地ハ千八百五十三年ニ當テ西班牙兵ノ為ニ圍マレ久ク解ケザリシガ其土ノ婦女勇壯ニシテ能ク戰ニ習ヒ竟ニ之ヲ解散シ一時婦名四方ニ聞ユト云フ方今有名ナル大學校アルモノハ其勇功ヲ賞シ且後人ヲノ鑑ミセシムル為ニ建築セシモノナリト云フ

○我羅斯ノ内シルカシアト云ル處ノ婦人ハ姿色姣婉ニシテ世界中婦人ノ名處ト云フ

○洋人肥健ト稱スト云ヘ其壽命ニ至テハ邦俗ト同シ然レ余一新聞紙ヲ讀ムニ千八百六十六年今ヲ距ルニ當テ南亞米利

加ブラジルノ内シントポールスト云ヘル處ニ老夫婦アリ夫八百十二歳ニシテ此節終リ婦八百十四歳ト雖レ尚存命ニシテ子十七人孫三十六人曾孫五十三人アリト云フ蓋彼邦ニテモ珍事ナレバ出セシナリ

○西洋諸邦城市鄉村ニ論ナク格物院ヲ設ケ
 技術ヲ以テ士ヲ進メ人ヲ舉ゲ一新理ヲ悟
 得スルモノアレバ官府ヨリ之ヲ旌表シ一
 新器ヲ發明スルモノアレバ獨其益ヲ擅ニ
 セシメ他人ヲノ働造セシメズシテ其利ヲ
 奪フ_テ得ザラシム且其器ニ造_{ヤクニシ}工ノ名ヲ
 命ジ新聞紙ヲ以テ四方ニ流布セシム是ヲ
 以テ凡百ノ器具書籍ノ如キハ皆發明者ノ
 名ヲ以テ之ヲ唱フ猶老子莊子_下云フガ如
 シ故ニ林氈ヲブランクトト呼ブモ千三百

四十年ニ於テ英人トーマス、ブランクトナ
 ル者此林氈ヲ織ル所ノ機器ヲ發明セシケ
 レバナリ又銃劍ヲバヨ_子トト呼ビ白葡萄酒
 ヲシヤアンベ_ン 俗ニシアンパント云
 是ナリ漢人音譯シテ
 三邊酒ト云フガ如キモ皆佛蘭西ノ地名ニ
 シテ其地ヨリ産スレバナリ猶 本邦ニ
 テモ什器若クハ産物ヲ呼ブニ地名或ハ人
 名ヲ以テスルモノアルガ如シ○倫敦ニベ
 ーテント_トヲヒスト唱テ發明器發行ノ免許
 ヲ與フル衙署アリ是レ新器湧出スルヲ以

テ官府ヨリ發明人ニノミ發行ノ免許ヲ與
 ヘテ他人ヨシテ倣造セザラシムルナリ此
 府ニハ從來免許ヲ與ヘ發行セル發明ノ器
 具或ハ技術ヲ記セル目錄書ヲ發兌ス又ソ
 ウツ、ケンシンダトン、ミジームト云ヘル寶
 庫ニハ古來ノ發明器ヲ納メ諸人ヨシ展觀
 セシハ但毎年發明スル所ノ品物凡二千箇
 ニ平均スト云フ此免許處ノ規律ハ國民外
 國人ニ關テズ自己ノ才量ヲ以テ發明シ或
 ハ外國人ノ發明ニ出デ既ニ世ニ行ハル、

ト雖モ未ダ曾テ國內ニ於テ發明セシモノ
 ナケレバ十四年間ノ免許ヲ得發明者ノ名
 ヲ銘スルヲ得ベシ如シ數人ノ才量ヲ以テ
 發明スルモノハ數人ノ名ヲ銘スルヲ得ベ
 シ但シ十四年間ノ免許トハ其年限ノ間他
 人ノ倣造スルヲ得ザルヲ云フナリ共十四
 年ヲ限リシモノハ凡此年限迄ニハ多クハ
 他ニ一層奇巧ナル類器ヲ發明スルモノア
 ルヲ以テナリ且此年限後ハ多クハ其器陳
 腐トナリ敢テ倣造スルモノナケレバナリ

然レレ從來發行スルモノト雖レ二物ヲ合
シテ一物トナスモノハ新物ニ屬シテ免許
ヲ得ベシ然レレ原物ト異ナル處ナキモノ
ハ官府ニ稟議シテ官府ノ決議ニ任スベシ
又從來發行スルモノト同物タリト雖レ其
方術ノ知ラズシテ暗合ニ出ヅルモノハ免
許ヲ得ベシ但免許ヲ與フベキ發明ノ品類
左ノ如シ

- 一第一 化學器學ニ原ヅク物件
- 一第二 新奇ノ機關

一第三 機關ヲ運用スベキ器具

○前条ノ如ク國制ナルヲ以テ其俗心思ヲ格
致ニ用非智巧ヲ鬪ハシ奇巧簡便ナル器械
ヲ發明スル所以ナリ故ニ彼ノ大艦ヲ製シ
巨砲ヲ鑄リ、屋ヲ築キ、橋ヲ架シ、山ヲ鑿テ、河
ヲ撈ヘル、倫敦港ノ如キハ撈河機ヲ備ヘタ
水ヲ導クル火船ヲ以テ毎ニ河底ヲ撈ヘ河
ナク且巨船ノ往來ニ便ナリガ如キ豪大ノ
舉業ヨリ木ヲ鋸リ、石ヲ斫リ、紗ヲ紡キ、布ヲ
織リ、繩ヲ絢ヒ、席ヲ織リ、紙ヲ抄シ、皮ヲ革シ、
酒ヲ釀シ、油ヲ造リ、麵ヲ磨シ、粉ヲ舂ク、近世
豆類

西洋見録 後編卷之三 雜記 二十五 天民館藏本

ノ皮ヲ巧ニ剥ク所ノ機械ヲ發明ガ如キ日
シ大ニ世ニ賞用セラルト云フ
用、鎖細ノ事業ニ至ル迄悉ク火輪機力ニ因
リ或ハ奇巧ナル器械ヲ以テ之ヲナシ大ニ
人カヲ省キ捷速ニ之ヲ辨ズ其余一切ノ木
器、錢器、磁器ヲ製スルガ如キモ火輪機ヲ以
テス甚シキニ至テハ縫衣器又洗衣器アリ
洗衣器ノ如キハ十分^三時ノ間ニ洗濯シ、押絞
リ、乾晒ス等一切ヲ成シ畢リテ最モ捷速ナ
リ夫レ如此凡百ノ工作悉ク器械ヲ用井ル
ヲ以テ西洋諸國往ク處トシテ工場アラザ

ルハナク其為ス所ノ事盛ナルヲ以テ此ニ
用井ル工人役丁モ亦極テ多シ故ニ器械ヲ
用井ル^一盛ナリト雖^一賤民ハ其工場ニ於
テ傭役セラレテ恒業ヲ失ヒ活計ヲ奪ハル
ルニ至ラズ蓋斯ノ如ク盛ニ器械ヲ用ユル
ヲ以テ一失ヲキニハ非ズ何ントナレバ工
人役丁不意ノ禍失ニ因テ災害ヲ受クル^一
少カラザレバナリ余始メ英國ニ在テ跛子
廢人ノ多キヲ訝カリシガ既ニシテ其器械
ノ致ス所ナルヲ知ル然レ^一之ヲ療スルモ

西洋見録 後編卷之三 天民館藏本

亦巧ナルヲ以テ跛子ト雖杖ニ憑テ能ク
歩シ匍匐坐行等ノ醜態ヲ見ハサズ偕巴黎
斯ニハ車輿盛ニ行ハル、ヲ以テ之カ為ニ
傷害セラル、者千八百四十年ニ當テ之ヲ
計ルニ同年中死人十四名、傷人三百九十四
名ト云フ又千八百六十四年ノ新聞ニ據ル
ニ日耳曼ノ一國サキシヨニーノ石炭礦ニ
用ユル所ノ礦夫二百人器械ノ用法ヲ失シ
不意ニ礦中ニ埋没シテ死スト云フ蓋斯ノ
如キ新聞モ時々アリト雖凡其毎ニ絶エザ

ルモノハ火輪車ヨリ起ル所ノ傷害トス是
レ機關方ノ禍失ニヨツテ兩車相激衝シテ
蕪粉トナリ或ハ錢道ニ損處アリテ車輪之
ヲ迸出シテ溝壑ニ墜チ或ハ兒輩ナド誤テ
錢道ヲ横行シ若クハ其上ニ佇立スルノ時
火輪車其上ヲ過ル等ノ禍失ニ因テ死傷ス
ルモノアリ千八百四十七年ノ始メヨリ同
四十八年ノ終ニ至ル迄二年ノ間英國中ノ
錢道ニ於テ起ル所ノ凶變ヲ計ルモノニ據
ルニ左ノ如シ

一 乘客ノ死害 五十一名
 一同 傷害 二百二十八名
 一 火輪車驛ノ死害 二百六十二名
 一同 傷害 百四十二名
 一 錢道^{上ニ立チ或ハ横}行スルモノノ死害 百名
 一同 傷害 二十三名
 通計死人 四百十三名
 傷人 三百九十三名
 然レ^レ近來用法益熟シ乘客益多ク錢道益開クルヲ以テ乘客ノ數ト錢道ノ里數トヲ

以テ死傷人ノ員數ニ比較スレバ死傷ノ者亦甚ク多カラズシテ例スルニ錢道我カ五
 十里乘客百萬人ニ付キ死人九名傷人十五
 名ニ當ルト云フ

○洋酒ニ菓酒アリ穀酒アリ洋説ニ菓酒ハ溫補滋養ノ藥劑ニシテ虛弱ナル體質ニ効アリ
 本邦ノ米酒ノ如キハ火酒ノ一種ニシテ激烈ノ性味アルヲ以テ虛弱家ニハ害
 アリ菓酒ノ中ニ就テモ蒲桃酒ヲ以テ最モ良藥ト云フ
 按スルニ洋人葡萄ヨリ數種ノ酒ヲ製シ之ヲ用ユル盛ナル

○西洋ニテ加非ヲ多ク用ユルヲ煎茶ト并ビ行ハル加非トハ本ト亞刺伯巴西ノ如キ九テ暖國ニ産スル菓實ノ名ニシテ豆類ナレ氏其豆ヲ焦シ其煎汁ニ砂糖或ハ牛乳液ヲ和ノ之ヲ用ユル所ノ飲料ヲ云フ苦味ナルヲ以テ胃中ノ酸敗ヲ防ギ能ク飲食ヲ消化セシノ頗ル体ニ可ナルヲ覺フ西洋諸邦ニテ一年ニ費ス所ノ加非ノ高凡三萬トニ我

カ六ト云フ又倫敦ニ加非店八百家アリト云フ悉ク加非ノミヲ供セズト雖亦以テ其盛ナルヲ知ルベシ

○羅馬ハ方今以太利ノ一小部ナリト雖昔時ハ羅馬ノ國勢大ニ強ク漢土西漢ノ時ニ當テ其疆域縱横千萬里ニシテ歐羅巴亞細亞、阿非利加ノ三洲ニ跨リ居然トシテ大ニ一紡ノ勢ヲナシ制度文物四方ニ布キ歐羅巴諸國臣妾トナツテ之ヲ景仰ス爾後大ニ天主教ノ權ヲ操リ其王ヲ教化王ト云ヒ今ニ

至ル迄其國ヲ宗教部ト称スルホドノ國ナ
 レバ其言語文字西洋諸邦ニ遺散スルヲ以
 テ洋人之ヲ羅^ラ^フ^ル^ト唱ヘ古語トシテ尊ブ
 猶邦人ノ古語ヲ雅言ト唱ヘテ尊ブガ如シ
 其語學ヲ講究スルヲ羅^ラ^フ^ル^ト唱ヘテ學
 科ノ一タリ叔如此昔時ハ制度文物四方ニ
 布化セシ程ノ國ナリシガ其俗文藝ヲ尊ビ
 シ流弊ナリケン方今ハ之ニ反シテ國民遊
 惰ニシテ勤メズ西洋乞丐盜賊ノ巢穴ナリ
 惟其遺俗流風ノ視ルベキモノハ繪畫彫刻

ノ巧ナルヲ他國ノ能ク及ブ所ニ非ズト云
 フ

○新約克ハ合衆國ノ一部ニシテ繁華富饒ナ
 ルヲ全國第一ノ府ナルガ方今罪人ノ統計
 凡三萬人アリト云フ

○西洋各國語學ヲ立テ、小學校ニ於テ先ヅ
 語法ヲ教エナドシテ各國語法自ラ嚴正ナ
 リト雖^レ地^ノ利^ハ諸邦ノ民雜集シ語法純
 一ナラスシテ其國語ニ十七種ノ別アリト
 云フ

○阿非利加海并ニ支那海ニハ賊船出没シ洋
 船ヲ覬覦シ其虚ニ乗シテ侵入ス洋船其賊
 難ニ遇フテ往々之アリ其始ノ來ルルハ漁
 船或ハ商船ト見エシガ近クニ及テ急ニ襲
 ヒ來テ發砲シ或ハ劍戟ヲ携ヘテ船中ニ亂
 入シ人ヲ殺シ財貨ヲ奪掠シテ去ル近來各
 國ノ兵船往來スルテ昔日ニ比スレハ屢ナ
 リト雖モ尚全ク止マズト見エテ時々新聞
 紙ニ出タリ如シ其事支那海ニ起レバ洋人
 ヨリ清朝政府ニ訟ヘテ贖金ヲ出サシムト

云フ蓋政化ノ至ラザルナリ

西洋圖集

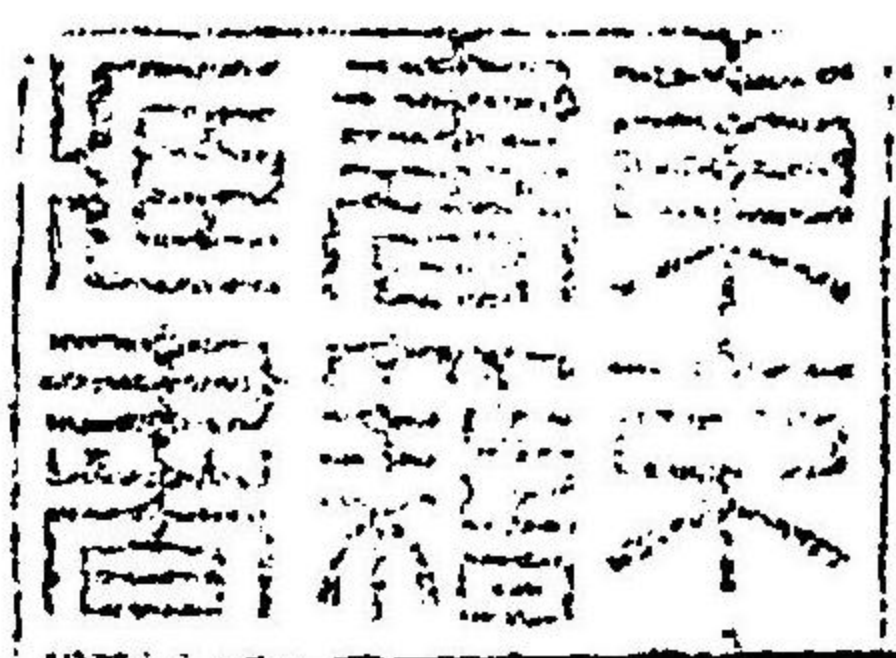
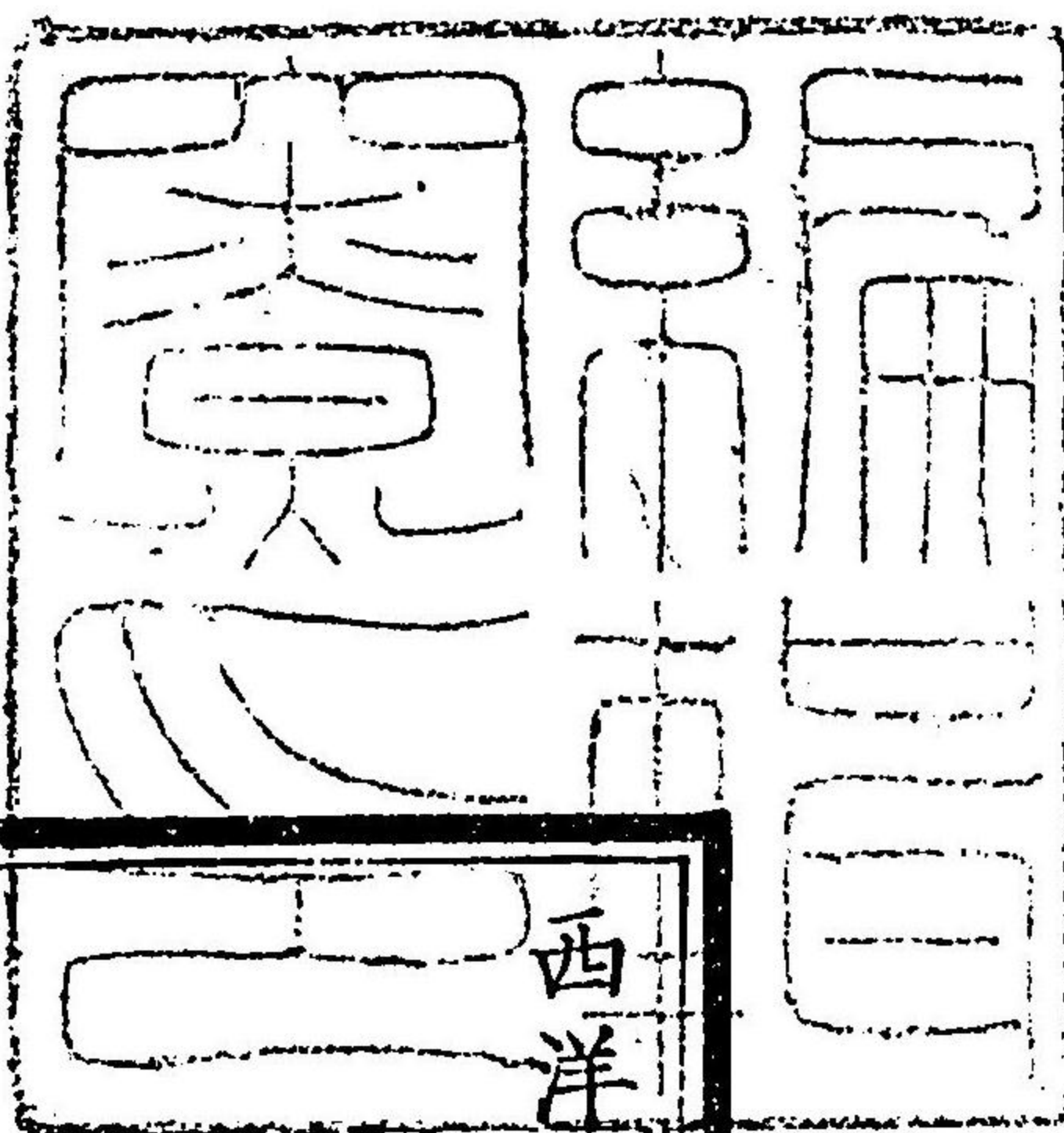
後編卷之三

雜記

三十一頁

東泉園書				
八	三	四	三	
冊	九	架	函	類
	号			

函
類
号
三
函
架
四
九
三
冊
共
八
本



西洋聞見錄後編卷之四

廣島藩

村田 樞 文夫 纂述

西洋雜記 雜記

萬國形勢表畧

雜記

○我羅斯軍勢盛ナルヲ字内ニ冠タリ一千

八百六十五年六月二十二日ノ新聞紙ニ日

行八百六十年ニ當テ士卒ノ給料ヲ計ル

ニ全國歳入三分之一余ニ居ル但シ歳入ノ

高三千四百九十六億〇三千五百ルイプル

西洋聞見錄

後編卷之四

天長宮藏本

凡我カ一千七百四十八億〇一千七百五十兩ニシテ總士卒ノ給料一千一百八十七億九萬二千二百八十九ループル凡我カ五百九十三億九萬六千四百四十四兩ナレバ歲入百ニ付給料三十三ノ比例ニ當ルヲ見ルバシ且是レ海軍士卒給料ノ外ナリ海軍士卒給料一歳ノ高一千六百萬ループル凡我カ八百萬兩ト云フ蓋給料逐年ニ増益スルヲ以テ兵税モ從テ増益スト云フ千八百六十三年ニ當テ給料ノ增高三百八十五萬七千ループル凡我カ百九十二萬八千五百兩トス又俄羅斯軍費并ニ

兵税ヲ公然ニセザレバ明詳ニ定メガタシト雖且諸邦警備兵費ノ為ニ出ス所ノ税金一人ニ付九六十ツ凡我カ金ニシテ一分余其總計九千五百萬ループル凡我カ七百五十萬兩トス又見習兵給料ノ為ニ出サシムル税金一人ニ付三十五ループル凡我カ十ニシテ七兩余總計九三百五十萬ループル凡我カ百七十五萬兩トス又俄羅斯ノ兵數七十萬ニシテ其内士位ニ列スル者三萬五千人將位ニ列スル者九百四十人ニシテ其余ハ悉ク兵卒ナリト云

○我羅斯兵船ノ數二百五十六艘ト稱ス其別左ノ如シ

○火輪飛船 二十二艘

○帆前飛船 十六艘

○火輪ブリゲート艦 二十一艘

○コルベット船 二十二艘

○小兵船 三十艘

○砲船 百三十七艘

○運送船 八艘

○佛國陸兵ノ盛ナルハ拿破崙初世ノ時ニ當テ六十萬ト稱ス方今佛國兵卒ヲ募ルノ法ハ凡國民二十一歳以上ノ男子ハ悉ク

兵籍ニ入ラザルヲ得ズ然ラザルモノハ代人金ヲ納メシム其兵卒トナツテ勤仕スル

ノ年限ハ七年ナレバ新兵入來リ新舊交代スルヲ以テ僅ニ六ヶ月ニ止ルト云フ○佛

蘭西兵船ノ數四百零四艘ト稱ス其別左ノ

如シ

○火輪飛船 三十七艘

○帆前飛船 九艘

○火輪ブリゲイト艦 四十七艘

○帆前ブリゲイト艦 二十八艘

○鑄造兵船 五艘

○火輪コルト船 十九艘

○帆前コルト船 十三艘

○火輪エボフス船 九十八艘

○帆前エボフス船 四十艘

○砲船 六十八艘

○砲臺船 九艘

○運送船 三十二艘

○凡歐羅巴諸邦ト亞細亞諸邦ト兵ヲ接シ一
且勝ヲ得ルト雖凡終ヲ克クヒテ或ハ
地ヲ割キ金ヲ納ノ或ハ其蠶食ニ遇ヒ竟ニ
其管轄ヲ免レザルニ至ルモノ多シ中ニモ
天保年間清國英國ト釁ヲ開ク所ノ鴉片兵
亂寶曆年間印度英國トノ爭亂ヲ以テ取モ
大戦トス夫レ鴉片ノ亂タルヤ清朝ヨリ阿
片互市ヲ嚴禁スレ氏有司賄ヲ貪リ其私鬻
ヲ顧ミ不故ニ其禁行ハレズシテ却テ逐年

増盛ス是ニ於テ林則徐斷然郷兵四千ヲ
 募リ英館ヲ襲ヒ英ノ船長エルリヲト以下
 數十人ヲ擒ニシ悉ク鴉片ヲ取テ之ヲ熱ク
 前後焚ク所ノ亞片四萬是ヲ亂階トス英是
 三千五百二十函ト云フ欲シテ大軍ヲ帥
 ヲリ修怨セント欲シテ大軍ヲ帥非テ至ル
 英勢猖獗ニシテ清軍遠近風ヲ望テ潰敗ス
 竟ニ清朝和ヲ請ヒ約ヲ立テ英軍ノ費ヲ償
 フト二千一百万ドルラ凡我カ千五百
 ノ地ヲ開ク上海、香港、廣州、福州、寧波、五ヶ處
 是ニ於テ英ヨリ公使ヲ駐ノテ之ヲ守ラシ

其内香港一島ハ全ク英國ノ管轄ニ歸ス
 ○英國ノ印度ヲ滅ボスヤ始メ我カ明應年
 間ポルトガル葡萄牙人始メテ航海シテ印度ノポ孟買ニ
 來リ其海港ヲ開キ城邑ヲ建ツ是ニ於テ商
 船往來シ葡萄牙大ニ富ヲ致ス荷蘭之ヲ忌
 ミ兵船ヲ以テ相攻メ其地ヲ攘フテ更ニ互
 市ヲ開キ印度海ノ利權ヲ擅ニスルト數十
 年ナリシガ英人東來シ兩國ヲ驅除シ其土
 ヲ有チ東印度商社ヲ立ツルニ迄テ佛人モ
 亦南印度ノ東界ニ於テ開港ス我カ寛文九年

ニ及テ孟加拉ニ在ル所ノ英人地ヲ買ヒ府館ヲ建テ砲台ヲ築キ家屋ヲ造リ市街ヲ修メ帆樯雲集シ百貨流通シ竟ニ富盛ノ都府トナル是ニ於テ東印度商社ノ勢大ニ振テ是ヲ東印度商社富盛ナルノ張本トス佛人其日ニ富盛ナルヲ忌ミテ英佛相惡シ屢相戰フト雖ニ佛軍不利ナリ佛人密ニ印度副王ニ讒スルニ英人印度ノ全土ヲ併吞スルノ謀反アルヲ以テ副王之ヲ聞テ急ニ孟加拉ノ酋長ヲメ英人ヲ襲ハシム佛人密ニ

之ガ聲援ヲナス英人不意ニ出テ策ノ出ル所ヲ知ラズシテ敗潰ス酋長勝ニ乘シ英館ヲ毀チ英卒百六十六人ヲ擄ニシテ之ヲ一小ノ土窖幅我カ二間二尺長サ我カ三間二尺ト云フ暗中ニ囚閉シ翌日土窖ヲ開テ之ヲ見レハ生存スル者僅ニ二十三人トスマドラス壘主キリフ之ヲ聞テ憤リ疾驅シテ孟加拉ニ抵リ其酋長ヲ敗リ孟加拉ヲ陷ル尋テ此事亦英國ニ達ス英國朝野憤怒シ兵艦數艘ヲ帥井大舉シテ至リ直ニ之ヲ攻

ノ勝ニ乘シ進テ南中諸部ヲ攻ム其勢猛虎ノ群羊ヲ驅ルガ如クニシテ所在風ヲ望テ瓦解シ竟ニ印度ノ全土十之八ヲ略定スルヲ得タリ僅ニ西北ノ三部英ノ管轄ヲ免ルト雖氏空名ヲ擁スルニ過ギガ英人竟ニ印度沿海ニ於テ藩部三處孟加拉、チチ、薩孟買ヲ立テ鎮府將軍ヲ置ク是ヲ方今印度ニ於テ英勢強盛ナルノ張本トス此役ヤ英將キリッフノ功十ノ七八ニ居ルキリッフハ本ト印度商社中ノ筆吏タリシガ厥後旗卒トナリ軍ニ

從ヒ屢々戰フテ屢々功ヲ奏シ竟ニ進テ副將軍ニ至ル○因ニ云フ我カ慶應二年佛國ノ羅馬教師清國ヨリ韓ニ入り其宗教ヲ弘ム宗教漸ク行ハレ宗徒漸ク属ス韓王之ヲ聞キ大ニ恚リ國法ヲ問ハズ國內ニ入ルヲ咎メ教師ヲ殺ス佛國之ヲ聞テ憤リ修怨セント欲シテ佛將ロッセヨソブリゲート艦一艘ヲルヘト船三艘砲船四艘ニ將タラシメテ發シ同年九月七日船軍韓ノカンゴホ一府ニ達ス韓主應接トシテ佛將ヲ首府ニ

招クト雖氏佛將其隱謀アルヲ知テ使ヲ遣
 シテ至ラズ且使ニ囑シ韓人ノ羅馬教ヲ信
 用シ其教師ヲ殺スヲ以テ其殺者ヲ罰セン
 一ヲ請フ佛將未タ其報ヲ得ズ韓既ニゼリ
 一ル河ニ船ヲ沈伏シ預メ河路ヲ塞キ韓主
 一萬五千ノ兵ヲ帥キテ急ニ佛軍ヲ襲フ佛
 軍其不意ニ出テ大ニ潰敗シ僅ニ死ヲ免レ
 テ定海ニ歸ル於是韓人大ニ勝ヲ誇ルト云
 フ一説ニ是ヨリ先キニ韓海ニ於テ無心ノ
 米利堅船ニ火ヲ放チ之ヲ焚キ船客并ニ舟

夫ヲ燒滅セシガ佛人其内ニ在ルヲ以テ佛
 ノ此舉ヤ旁ラ之ヲ韓ニ責ムト云フ佛國近
 來（シ）魯士ノ例ニ倣ヒ大ニ民兵ヲ編制シ凡
 六十萬兵ヲ得タリソガ此敗ヲ聞テ倍之ヲ
 勉ムト云フ

○ウヲイトルロウ戦セバステポール戦ヲ以

テ西洋古今有名ノ二大戦トスウヲイトル
 ロウ戦タルヤ拿破崙匹夫ヨリ起リ地中海
 コルシカニ生ル蓋世ノ勇ヲ以テ歐羅巴諸邦ヲ席
 卷シ二十四歳ニ迄テ殆ント歐羅巴全洲大

一紗ノ勢ヲナス其抗衛スルモノハ英吉利
我羅斯ノミ拿破崙猶紡一セント欲シテ歐
羅巴諸洲之ガ為ニ頻年干戈止マズ萬民寧
處ニ遑アラズ於是列國會盟シ拿破崙ヲ討
ジ遂ニ之ヲ降伏ス拿破崙誓ヲ立テ帝位ヲ
讓ル是ニ於テ佛蘭西復一タビ正紗ヲ復ス
ルヲ得タリ諸國主拿破崙ヲ執テエルバー
島ニ竄送ス實ニ我カ文化十年ナリ既ニシ
テ拿破崙再起テ兵ヲ收メ佛都ニ歸リ帝位
ヲ僭ス佛兵復々大ニ屬ス列國之ヲ聞テ大

ニ憤怒シ英吉利、名ルリシグト人ン
八萬ニ將タラシ前後此軍費一千六百億ノ
八百億 普魯士ポンドニシテ凡我四千グリユセル人ノ兵十二
萬ヲ帥名井セシノ兩軍盟ヲ立テ相合シテ討
擊セント欲シ東西ヨリ進撃スレバ拿破崙
之ヲ遮リ英兵普兵ト合スルコト能ハズシテ
軍ヲ林側ニ退ク其地丘ニ依リ河ニ臨ミ四
望濶然トシ林樹帶ノ如シ此丘ヲトルトロ
ウト云フ英將名ホルリシグトニ此ニ據ル拿
破崙兵ヲ放チ突撃進到ス勝敗未タ決セズ

天已夜ナリ普將ブルセル佛軍ノ背ヨリ逼リ
 奮戦ス拿破崙腹背ニ敵ヲ受ケ進退ニ窮シ
 佛軍大ニ潰ユ是ヲウートルロヤ戦ト云フ
 凡此三日ノ連戦ニ當テ佛兵四萬普兵一萬
 六千英兵一萬三千通計六萬九千ノ兵戦死
 スト云フ以テ其大激戦タルヲ概知スベシ
 拿破崙敗北スルヤ敵兵之ヲ逐ノ拿破崙身
 ヲ脱シ航海シテ米利堅ニ至ラントスルノ
 途中英國哨船ノ為ニ要撃セラル英人之ヲ
 擄ニシ竟ニサントヘレナ島阿非利加ニ在リ

閉ス千八百二十一年我カ文政四年五月島中ニ卒ス
 享年五十有一歳後二十年ヲ經テ佛國ヨリ
 英國ニ請ヒ皇帝ノ禮ヲ以テ巴黎斯ニ歸葬
 スト云フ○セバステポールの激戦タルヤ
 始ノ義羅斯帝土耳其人ノ希臘教ヲ奉ズル
 モノヲ管轄シ回々教ヲ奉ズルモノヲ滅絶
 セント欲シテ土耳其ノ北境ヨリ入テ其都
 城ヲ攻メント欲ス是ニ於テ英佛奧土義ノ
 五國ノ公使ビンナ奧地利ニ會シ和ヲ議ス
 レ正我使聴カズ乃戦ヲ開ク英佛ハ土國ニ

應援シ路ヲ分ツテ兵艦ヲ發シ一ハバルチ
 キ海ヨリ彼得堡ノ京城ニ逼リ一ハ黒海ヨ
 リ我軍ヲ攻ム其間懸隔數千里ナリ千八百
 五十年嘉永三年英兵五萬六千クソミ一我羅斯屬部ニ
 シテ黒海ニ接シニ達ス是ニ於テ我羅斯腹
 背ニ敵ヲ受ルト雖氏奮戰抗擊ス英佛セバ
 ステポール府ニ在リ一ヲ圍ム一一年ニシ
 テ而後竟ニ之ヲ陷リ勝ニ乘ジテ進撃ス我
 軍敗北シ英佛大捷ヲ得タリ是ヲ名テセバ
 ステポール戰ト云フ此役ヤ前後死亡スル

者我人五十萬余佛人六萬英人二萬土人其
 數ヲ知ラズ千八百五十六年ニ至テ我羅斯
 竟ニ和ヲ請ヒ巴黎斯ニ於テ和議ナル且誓
 フニ黒海ノ海濱ニ於テ一兵ヲ備ヘザルヲ
 以テス始メ英佛ノセバステポールヲ圍ム
 ヤ此地英國兵艦ノ碇泊スル所ノ海港バラ
 カラバアヲ距ル一凡我カ十里ナルガ英將
 急ニ火輪車路ヲ鑿開シ其陣營ト兵艦ノ間
 往來極テ便ナリ兵艦ヨリ輜重ヲ運フニ火
 輪車ヲ以テスレバ瞬速ニ相達ス火輪車ヲ

軍事ニ用井シ是ヲ權輿トス又此港ヨリ新
ニ海底傳信機ヲ設ケ黑海地中海ヨリ佛國
傳信機ニ接シ竟ニ英國ニ達ス英國政府ニ
ハ陣營ヨリ時々刻々ニ新報ヲ得敵軍ノ事
情ヲ審ニスルヲ得ルヲ以テ坐ナガラニ
シテ千軍ヲ數千里外ニ指揮ス豈一大ノ雄
略ナラバヤ

○慶應二年夏四月普魯士兵ヲ起シ大軍ヲ以
テ殆ニド^{ベル}取^ニ曼全國ヲ蠶食ス其兵端ヲ開
ク所以ノ根本ニ至テハ風說紛々一定セズ

トイヘ此畢竟之ヲ要スルニ日耳曼列國ヲ
并吞セント欲スルノ宿謀ヨリ外ナラズ普
魯士ノ兵ヲ舉グルヤ以太利聲援ヲナシ海
陸ヨリ并セ進ニテ奧地利并ニ日耳曼ヲ攻
ム普軍日ニ猖獗ニシテ日耳曼列國風ヲ望
ニテ潰敗シ填軍屢敗北シテ利アラズ普軍
ノ兩將コロラン、プリイニス、普王ノ子ニシ
テ英王ノ女ヲ
娶カヲニト、ゴスマルク共ニ沈勇ニシテ屢
戰ヒ屢勝ヲ竟ニ奮戰シテ大ニ填軍ノ將ベ
シテツキノ兵ヲ敗リニヶ月ニ足ラズシテ

ランクホルトノ日耳曼ノ京城ヲ陷リナツソウ、サツ
キシヨニー、ハナチーブル、ヘツセン、ハスレス
井グ、ホルスタインノ皆日耳曼ノ六國ヲ畧定
シテ其版圖ニ入レ其餘日耳曼南北ノ小諸
族二十余國悉ク降附シ前後凡ソ七萬五千
人ノ敵兵ヲ擄ニシ墾地利ヲメ軍費七千萬
ポンド凡我カ二千
一百億兩ヲ償ハシノ且ッベニス地名
ハ本ト以太利ノ屬部ナルヲ墾地利ヨリ蠶
食スルヲ以テ之ヲ以太利ニ復セシム同年
六月ニ至テ大略平定ス是ニ於テ普國ノ境

域大ニ擴張ス誠ニ歐洲ノ地ニ於テ近世ノ
一大變革ト謂フベシ余嘗之ヲ洋人ニ聞ク
普魯士ノ此大捷ヲ獲ル所以ハ軍兵多寡ノ
敵セザルノミナラズ普國近年大ニ民兵ヲ
編制シ兵ヲ講シ卒ヲ勵マヌ日耳曼ハ之ニ
反シテ列國法ヲ立テ政ヲ異ニシ各國區々
トシテ一定セズ能ク全國ノ力ヲ舉テ敵ス
ル能ハズ加之ニ近年國內大ニ疲弊セルノ
ミナラズ普魯士ト同宗教ヲ信奉スルヲ以
テ國民歸嚮シ易ケレバナリト且此舉ヤ普

軍新砲世ニ針打砲トヲ用井大ニ利アリト
 云フ此記ヤ樞英ノニ在リシ氏英人ヨリ聞
 ト佛國ト再ニ構兵シ普軍大捷ヲ得佛帝拿
 破嵩三世ヲ擒ニ佛國朝綱ヲ革メテ共和
 民政トナス等ノ始末ノ如キハ樞カ聞見ニ
 モ関カラス且海外新聞ニ詳ナレバ茲ニ贅
 セズト云フ

○西洋古今ノ二大征戰ニ一ツハ寒氣ヲ以テ退
 軍シ一ツハ炎熱ヲ以テ果サズ寒熱表裡ノ事
 故ニ因テ軍ヲ退ルノ套話アリ紀元前三百
 二十二年ニ當テ歷山ヒキヤル既ニ希臘ヲ紆一シ希
 臘帝ト稱シ波斯ヲ降服セシメ又進ンテ地

中海諸部小亞細亞諸部ヲ畧シ麥西ヲ攻メ

取リ竟ニ大軍ヲ擁シテ東方遠邈ノ地ニ入

リ印度全土ヲ并吞セント欲シテ發セシガ

亞刺伯ノ沙漠ヲ經ルニ及ンデ其地熱國ニ属

シ平沙浩々トシテ水草共ニナシ饑渴シテ

死スル者萬ヲ以テ數フ且將士比年ノ征役

ニ苦ミ皆怨望ス是ニ於テ軍ヲ引テ返ル既

ニシテ歷山酒ニ中テ死スト云フ○拿破崙

ノ義羅斯ニ入ルヤ兵五十萬ヲ帥井長驅シ

テモスコロ義羅斯ニ抵レバ城既ニ燒トシ

僻遠曠漠ノ地ナレバ四面渺茫トシテ兵ヲ
息フバキ處ナシ時ニ寒甚シク大軍大半凍
死ス拿破崙其兄ナボリ王ヲ駐ノ輕騎ニシ
テ歸ル冬雪ノ解クルニ及デモスコロヨリ
ナイノニ地名ニ抵ル逆僵屍相属キ凡我カ四
百二十里ハ百四十ノ間四十萬ノ白骨連綿
トノ露出シ見ルモノ慘然タラザルハナシ
ト云フ以テ其苦役ノ大征タルヲ想思スベ
シ

○古來ヨリ外國人 本邦ノ事ニ就テ二大

ノ訛傳アリ其一ハ洋人 本邦ノ四大島

ニ名ヲ分テ與ヘテ 日本蝦夷九州四國

ト云ヒ總稱ヲ英語ニジヤパン蘭語ニヤッパ

シト云フ是レナリ按スルニヤッパンハ日
轉訛ニシテジヤパンハヤッパンヨ其彼レガ

所謂 日本トハ五畿七道ノ内南海西海

ノ二道ヲ除キ紀州ヲ加ヘテ一島ナレバ此

一島ノミヲ云フナリ余洋人ニ其非ナルヲ

ヲ告ゲケレバ洋人曰ク 本邦四大島ヲ

總轄シ三島ニ各稱アリテ一島ニナシ其一

島ヲ呼ガキハ何ニト稱スルヤト蓋九州、四
 國ノ名ハ島名ノ如ク世俗ニ通稱シ來タレ
 バ斯ク訛傳セシナリ亦舊唐書ニモ倭國ト
 日本國ト各別ニ傳ヲ立テ、曰ク
 本國者倭國之別種也ト然レモ
 天智帝國号ヲ改メテ日本ト唱ヘ玉フヲ天
 下ニ勅シ之ヲ異朝ニ告ケ玉ヘハ新唐書ニ
 ハ此誤ナシ○其一ハ洋人從來 皇國ニ
 二帝アリト思ヒシ是レナリ其二帝トハ一
 ヲ宗教帝スピリチュアルト云ヒ一ヲ司生

帝テムボラールト云フ彼レ曰ク宗教帝ハ
 其宗祖天地開闢ノ世ニ當テ天ヨリ降臨シ
 宗教ノ宗主ニシテ 日本ノ正統ナリト
 テ之ヲ尊仰スル一神ノ如シト雖モ絶テ一
 權威ナシ司生帝ハ現世ノ生民ヲ統轄スル
 ヲ以テ權威赫々トシテ之ヲ恐ル、一鬼神
 ノ如シト故ニ從來洋人江戸ヲ以テ京城ト
 シテ京都アルヲ知ラズ然レモ近者

○洋人和語ヲ習フニ大ニ苦ミ邦人ノ洋語ヲ

解スルが如ク能ク語リ能ク文ヲ作ルモノ
 未ク嘗テ之アラズ又洋人漢文ヲ以テ自國
 ノ書ヲ翻譯スルモノ多ク洋文ヲ以テ漢書
 ヲ譯撰スルモノ亦少カラズト雖氏未ク
 聞カズ和文ヲ以テ洋書ヲ譯解シ又洋文ヲ
 以テ和書ヲ翻譯スルモノアルヲ米利堅ノ
 水師提督伯理が俗ニペルリト日本史記、英
 使ロルドイルギンが日本雜話、英ノ教師ヲ
 ールコック氏が日本記行等アルト雖氏見聞
 スル所ニ因テ記錄スルニ過キバシテ和書

ヲ譯述スルモノニ非ズ獨英ノ教師平文氏
 稍本邦ノ俗語ニ通ジ英和字林ヲ著シ
 蘭人ドンケルチス蘭文ヲ以テ日本文典
 ヲ撰スルノミ其洋人ノ漢文ヲ以テ自國ノ
 書ヲ譯スルが如キハ漢人ノ潤刪ヲ免レズ
 ト雖正亦盛ナリト云フベシ所謂英國醫士
 合信氏ノ博物新編、地球說略、西醫略論、慕維
 廉氏ノ英國志、地理全誌、丁韋良氏ノ格物入
 門、萬國公法、偉烈氏ノ數學啓蒙等、如キハ
 翻刻本世ニ行ハレテ人ノ能ク知ル所ナレ

氏新書兩約書ノ如キハ余之ヲ原木ト撰校
 者ノ姓氏ヲ舉ゲザルヲ以テ何人ノ譯ナリ
 ヲ知ラズト雖モ恐クハ漢人ノ手ニ出ダシ
 カ、如シ夫レ洋文ヲ以テ漢籍ヲ翻譯スル
 ガ如キハ邦人知ルモノ少ナリト雖モ亦以
 テ藉々タリト云フベシ即佛人巴性ハ佛文
 ヲ以テ官話活法ヲ著シ、羅甸國語ヲ以テ孟
 子ヲ譯シ、佛人儒蓮ハ佛語ヲ以テ桑蠶輯要
 并ニ老子等ヲ譯シ、英人某ハ康熙字典ヲ譯
 シ、普魯士人四書ヲ譯スル等是レナリ以上
 于六合獨惜ムベキハ英ノ教師バイダハ
 叢談

久シク支那ニ在テ漢學ヲ講習シ 本邦
 ニ來リ日本外史ヲ英文ニ翻譯セント欲シ
 テ刻苦セシガ草稿半バニシテ鬱憂病ヲ發
 シ自己ニ向ヒ放砲シテ死スト云フ

○西洋ニモ詩學アリテ洋人諷咏ニ耽ル亦

猶邦人漢人ノ歌詩ニ於ケルガ如シ古昔和
 モノアリ能ク詩ヲ作リ著ス所ノ詩集二十
 四卷アリ是ヲ遠西詩人ノ鼻祖トス詳ニ中
 外新報ニ其彼レガ詩法ハ長篇アリ短句ア
 リ其法種々ナレモ唐詩ト大畧体格ヲ同ウ
 シテ一詩同韻ヲ用井如シ四句ノ詩ナレバ

第一句、第二句、第四句ニ同韻ヲ用井第三句ハ他韻ヲ用ユルモノアリ或ハ第一句、第三句ニ於テ韻ヲ踏ミ第二句、第四句ハ踏落シニスルモノアリ又一詩數韻ヲ用ユルモノアリ蓋詩ハ懷ヲ述ベ志ヲ言ヒ之ヲ吟誦ニ用ユレハ東西同轍ニ出テ、句調語音ヲノ均調セシムルナリ

○西洋ニテ扇ヲ用ユルモノハ婦人ノミニシテ男子ハ嘗テ用井ス婦人ト雖_レ中産以上ノ婦人戲場或ハ舞會等ノ如キ盛宴ノ席ニ

臨ムニ非ラザレバ携_ヒズ其製彩羽或ハ美紙或ハ絹素ヲ以テ造リタルモノニシテ官家ノ用ユル所ノ檜扇ノ如ク美麗ニシテ婦人ノ修容具トナリケレバ少女雜華源名ヨイジハル新開紙ノ類ナリト云ニ邦俗ニ扇ヲ用井ル_レト嘲テ曰ク和扇ノ用タルヤ博シト云フベシ何ゾ獨婦人ノミ之ヲ用井ンヤ第一ニ校師之ヲ佩テ學校ニ往キ懶怠ナル學童ヲ鞭勵ス第二ニ艷男ハ之ヲ以テ舉動ノ拙態ヲ掩フ第三ニ乞丐ハ之ヲ以テ其施ヲ受

ク第四ニ旅客ハ之ニ行程等旅中ノ要件ヲ
 記シ遺忘ニ備フ第五ニ兵士ハ錢扇ヲ携ヘ
 テ接戦ノ用ニ供フ第六ニ軍將ハ之ヲ以テ
 士卒ヲ指揮ス第七ニ君上ヨリ臣下エ死ヲ
 賜フ片ハ扇ヲ與ヘテ其標示トセリ按ハル
云フ扇腹切ヲト蓋婦人ノミ用ユル所ノ風
云フナラシ俗ヨリ見レハ斯クモ奇ナルベシ

○西洋博物學ヲ主張シ物理ヲ講究スルヲ以
 テ凡覆載間ノ事物皆理アツテ存シ奇怪ト
 稱スベキヲナシトスト雖モ究理スベカラ

ザルノ一素ヨリ多シ又往古未ダ博物學ノ
 開ケザル世ニ當テハ虛誕無據ノ說亦少カ
 ラズ近世文學益關ケ此等ノ事ナシト雖モ
 凡俗ニ至テハ儘亦虛誕ノ說ヲ株守スルモ
 ノアリ而ノ其說ト事實ト偶中スルモノア
 ルモ亦ク奇ト云フベシ千七百四十八年ニ
 當テ英國公會ニ於テ議シブラドリキト云
 ヘル星學家ヲノ曆法ヲ改メシカバ民間沸
 然トシ時日ヲ玩弄スルモノトセシガ俄ニシ
 テ星學家死シケレバ衆人天譴ニ遭フモノナ

リト云フ今茲ニ彗星ニ係ル所ノ數例ヲ舉グ
 ルニ彗星ハ其質不可秤ノ濛氣狀体ニシテ光
 氣ナク太陽ニ近ツク寸ハ太陽ノ濛氣ニ因テ
 散解シ始テ其形ヲ現ハス其太陽ニ向フ處益
 明ナリ是レ彗狀ヲナス所以ナリ蓋遊星ノ
 一種ニシテ軌道アツテ諸遊星ト與ニ日輪ヲ
 繞テ行クトイヘ凡惟佗星ノ如ク來去方向定
 マラズ其形狀モ亦種々ナルノミ豈ニ水旱兵
 災等其餘種々ノ天變地異或ハ人事興衰ニ關
 ルノ理アラシヤ然レ凡古ヨリ怪異ノ星トシ

彗星出ヅレハ必一變事ヲ期セシガ果シテ一
 變事アルヲ以テ博物家ノラルド子ル氏ハ其
 變事ハ彗星ノ感應ナリトテ彗星感應篇ヲ著
 シ感應スル事變ヲ掲ケタリ其大畧ニ曰ク
 一紀元前四十三年ニ當テ現ハル、所ノ慧
 星ハヱリユス、ジーザル庶民ヨリ起リ羅
 羅巴諸邦ヲ攻畧セシガ後馬帝トナリ大ニ歐
 竟ニ其下ノ為ニ殺サルノ怨恨化シテ
 天ニ顯ハル、モノトス
 一紀元ノ年ニ赫々トシテ日光ヲ奪フガ如
 キ彗星出デケレバ果ノ教祖生ル

一 五百九十年ニ當テ彗星現ハレ疫癘大ニ行ハル

一 千四百零二年ニ當テ彗星現ハレ
グリーリアス、ビスコンチート云ヘル英雄没ス

一 千四百五十六年ニ當テ長彗星現ハル當時其長サヲ測量セシニ宇宙ノ距離ノ三分ノ二アリテ其形土耳其人用ユル所ノ劍ニ似タレバ歐羅巴諸邦大ニ恐震シ土耳其ヨリ歐羅巴ヲ侵襲スルノ兆トセシ

ガ果ノ馬哈默二世土耳其ヨリ歐羅巴ニ侵入シ馬哈默教大ニ行ハル

一 千五百三十二年ニ當テ彗星現ハル伊太利國ノ英主ソホルサ二世没ス

一 千六百六十五年ニ當テ彗星出テ倫敦ニ於テ疫癘大ニ行ハル

一 千七百四十六年ニ當テ大彗星出テカルロウ及リマ共ニ南亞米ノ市街地震ノ為ニ壊破ス

一 千七百八十三年ニ當テ彗星現ハレ清國

歐羅巴、北亞米利加ノ諸國大霧四塞シ、咫尺ヲ辨ゼザル。凡一月ニ及ブト云フ。同年ニカラブリアノ伊太利大ニ地震シ、地中ニ埋没スル者四萬人ト云フ。又同年ニ當テ氷島ニ在ル所ノヘクヲト云ヘル火山破裂シ、其近傍ノ海底ノ處ニ於テ更ニ噴火ロヲ開カト云フ。

一千八百十一年ノ彗星ハ大ニ葡萄ヲ豐熟セシノ歐羅巴諸邦之ヲ以テ葡萄酒ヲ製スルヲ以テ一時彗星酒ノ名アリテ名聲

最モ盛ナリ

一千八百二十五年ニ當テ三彗星現レ、麥西

國地大ニ震ス

一千八百三十一年ニ當テ彗星現ハレ、復々千七百八十三年ノ如ク歐羅巴、北亞米利加ノ諸邦大霧四塞ス

其余偶中セル事變極テ多シ、今其大畧ヲ抄出スルノミ。又西土天文士ノ説ニ如シ、彗星ノ巡行俄ニ地球ニ近ケ、日熱ヲ假テ全土ヲ灰燼トナサシレバ、彗星ノ引カテ以テ海

水ヲ引キ全土ヲ汎濫セシメントノ議論アリ

○少女雜筆ニ曰ク地球自轉一周スレバ晝夜ヲ生シ太陽ヲ繞ル一周スレバ一年トナルノ説明實ニシテ人ノ能ク知ル所ナルガ千八百六十六年ニ當テ佛國ノ星學家地球運行ノ度ヲ測リシニ二千年前ヨリ其運行ノ緩ナル一セコンド五十分ノ一ナリト英國ノ博物士之ヲ聞テ其推測ニ據リ復タ推算シテ曰ク一萬六千億年ノ久シキヲ經

レバ地球ノ運轉全ク止ミ兀然トシテ自立スバシ其災害果ノ如何ゾヤト西人心思ヲ格致ニ用ユルノ甚シキヲ看ルベシ

萬國形勢表略緒言

萬國政表世ニ譯行シテ以來裨益ヲ得ルモノ少
 カラズト雖_レ獨惜ラクハ洋字ノ順序ニ從テ編
 次スルノミナラズ_カ歟_カ條_カ紛_カ冗ニシテ搜索ニ便ナ
 ラズ加_レ之爾後歐羅巴諸邦等兵亂屢繼キ境域民
 口等ノ事ニ至テハ全ク其書ノ如クナラザレバ
 今略其書ノ体裁ニ倣ヒ萬國形勢表略數篇ヲ編
 述ス其第一表ニハ千八百六十七年ニ於テ鏤行
 スル所ノ萬國地誌ヨリ萬國ノ朝綱京城廣狹民
 口產物ノ五目ヲ抄出シ第二表ニハ強大ナル各

國ノ兵數、碩數、艦數、商船數ヲ抄録シ第三表ニハ
 五大洲ノ廣狹、民口ヲ揭示シ第四表ニハ英國屬
 藩ノ首府、廣狹、民口ヲ揭示シ每表ニ其条目ヲ一
 行ニ臚列シ國名ニ從テ其条目ノ要ヲ搜索セシ
 ノ立ニ萬國ノ形勢如何ヲシラシムト云フ
 一里數ハ 本邦ノ里法ニ改翻スルモノナ
 リ
 一里方トハ幾里四方ヲ云フナリ幾坪ヲ云フ
 ニ非ス
 一產物ハ緊要ナルモノヲ舉グルノミ

一凡云ト云フモノハ未ク定測ヲ得ザルナリ

○第一 萬國形勢表略

亞細亞			亞	洲名
國	清	朝鮮	日本	國名
蒙古王	清將軍	朝鮮王	日本帝	朝綱
烏理雅蘇	奉天府	京畿	彌耶穀	京城或首府
五百九十二	四百二十八	四百十二	二百五十八	里方
四十六億	凡四千〇		九千五百萬	人口
驢馬	人參、大黃、駱駝、虎	人參、金、錫、鐵、米、器、砂、糖	五金、五穀、茶、葉、竹、木、漆、磁、器、銅、鐵	產物

西洋國名錄
後編卷之四
形數表
三
天官館藏本

羅斯屬	麥西	努比亞	西比西尼	摩洛哥	阿爾及	的波里	突尼斯
將軍	王	酋長	王	帝	佛屬	土屬	土屬
同上	改羅	加冬	公達	摩洛哥	阿爾及	的波里	突尼斯
一千四百七十三萬	二百三十六萬	二百八十三萬	二百六十八萬	四百〇五	一千五百	五百十三萬	四百〇五
五金、寶石、獸皮、名鹿、大犬	五穀、橄欖、皮貨、羊、馬、驢	金砂、象牙、羊毛、布、棉花、駱駝	米、麥、棉、麻、蜜、糖、獅子、白象、海馬	皮貨、金箔、象牙、鳴鳥	五穀、蒲桃、酒、皮、貨、珊瑚	橄欖、臘、棉、硫黃	五穀、銀、銅、綢、緞、羊毛布

塞內岡比	上幾內亞	下幾內亞	撒哈拉	蘇丹	喜望岬	那達爾	加弗勒里
諸酋	各據	無	紗	轄	係	英	轄
無	定	都	府	無	破	敦	敦
五百萬	六百	二百四十五	八百廿二	七百九十一	百八十五	六十七	七十
凡一千萬	凡十萬	凡十五萬	凡十萬	凡十五萬	十九萬	十萬八千六百五十五	未詳
金、銅、紋石、皮革、鱷魚、白象、獠獠	極少	琥珀、獸皮、猛獸	銅、鹽、穀、菓、酒、皮	金、綿、絲、洋、藍、棉、樹膠			

西洋國名錄
後編卷之四
天官館藏本

歐							
馬達加斯加島	英國	佛國	和蘭	比利士	普魯士	瑞典	那威
王	王	帝	王	王	帝	二國	一王
タナリボ	倫敦	巴黎斯	俺特坦	比律悉	伯靈	士篤恒	キタミア
二百二十三	二百四十七	二百二十六	五十七	五十三	百六十四	二百〇六	百七十四
四百萬	二千七百零三 万七千七百零	三千五百 四十萬	三百萬	四百五十二 九千四百零	一千七百二十 万二千八百	三百六十四 一千六百	百四十三 千四百五十八
絲麻蠟膠銀銅	麻布棉布羊布石炭 錢磁器鐵器	白糖蒲酒大小呢綢 緞毛布麻布	牛油火酒呢毡 毳毛緞	穀菓石炭錢磁 砂	銅鐵綢絲磁器 穀木	五穀錢尤美 獸皮木材	

巴						羅
曼	耳	日	我	羅	連	馬
ナツウ	ベツセル	ヘツセル	ホルグ	ノクレン	ヨールテ	ハノブル
侯	侯	普屬	侯	侯	侯	王
属普	タルマスタ	ケツセル	ミウリン	ヨルゲンボク	ハノブル	哥單合給
二百四十七						百二十三
四千二百萬						一百四十六 八千七百十三
穀蒲桃酒大呢	石磁石石炭五	錫寶石紋石硝	金銀銅鉛水銀	五穀鯨魚海犬	五金菓穀蒜油	牛馬皮貨

西洋列國
形勢表
五
邦邦

歐						
列	國	八部	瑞	瑞	西	西
バーデン	スウェーデン	立侯伯	士	士	班牙	班牙
侯	王	政	共和	共和	王	王
カールスルウ	ストックホルム		伯	伯	馬德里	馬德里
	ミュニッヒ		尼	尼	二百十	二百十
	ドレスデン		維也納	維也納	六十二	六十二
			二百五十四	二百五十四	二百十	二百十
			三億九千四百萬	三億九千四百萬	七千七百五十	七千七百五十
			毛呢	毛呢	絲綿	絲綿
			五金、水銀、寶石	五金、水銀、寶石	羊、麋、鹿	羊、麋、鹿
			木材、蒲桃、熊羆	木材、蒲桃、熊羆	羊、麋、鹿	羊、麋、鹿
			時規	時規		

羅						
葡	以	太	利	列	國	巴
葡萄牙	撒丁	多加納	巴馬	摩德拿	那不勒	西里
王	王	侯	侯	侯	國	王
里斯本	多靈	佛稜	巴馬	摩德拿	那不勒	巴勒摩
九十三	九十六	四十六	二十六	二十四	百〇五	百〇五
三百四十九萬	八百〇三萬	八百八十五萬	四百九萬九千	六千〇萬四千	九百一十二萬	九百一十二萬
五金、寶石、磁石			五穀、蒲桃、諸菓		山羊、綿羊	

西洋列國
後編卷之四
天民管藏本

土耳其 土	希臘 希	北連國屬 連	亞羅斯屬 羅	米英國屬 英	利合衆國 合	加利 加	中 中
帝	王	連置	羅置	英置	共和	共和	或共
君士但丁	雅典	シヨリア	新	ヲグワ	華盛頓	墨西哥	ヨマキユア
二百二十九	六十二	三百零八	三百十四	九百卅四	五百〇六	四百六十二	百二十八
千二百五十	百〇四五千	九千八百十一	六萬六千	三百四十三	二百三十九	七千七百五	三十八萬
煙草、葡萄、羊毛、錫、銅、鉛	橘、葡萄、蜜、南菓、蠶桑	鯨、鯨油、海犬	同上	銅、鐵、石炭、材木、獸皮、鯨、海狗、白熊	五穀、棉花、綿布、毛布、煙草、材木、金銀	金銀、為、大、利、材、木、藥材	

哥倫	西印度	加利	米亞	亞	中
新	有外屬	同上	共和	英屬	或共
波哥大	ハバナ	サンジヨウ	リヲン	ハリース	ヨマキユア
三百六十一	百五十二	七十九	百〇五	六十三	百二十八
二百三十六	三百五十七	二十萬五千	四十萬	六十萬	三十八萬
五金、寶珠、加非、糖、其、余、物、產、繁	佳菓、棉花、加非、火酒		棉花、香品	金銀、寶珠、材木	

西洋開埠... 形數表... 九... 研... 館... 本...

歐						
佛國	和蘭	比利士	普魯士	瑞典	那威	噠馬
三万零六百	六万二千九百	九萬	十三萬四千	三萬四千	二萬三千	二萬
八千	千八百	九十四	六百十七	二千四百	五百六十	一千百二十
四百〇四	百四十	十五	五十八	三百四十	百六十	三十三
一萬四千三百五十三	一千二百四十三	百五十四	九百九十八	千二百五十四	三千六百八十七	千七百四十
						一千一百

巴				羅			
國列	太以	葡萄牙	西班牙	瑞士	奧地利	日耳曼列國	
多加納	摩德拿	三萬八千	十六萬	七萬二千	五十萬	六十萬	
一萬二千	三千五百	七百	七百二十一		六百	百二十二	
十五	二十四	三十六	五十一		百五十六	三十七	
十	五	三百八十六	二千九百		五百八十		
九百二十一	七百六十八						

百... 月... 日... 歲... 官... 歲... 本...

加利米亞南	加利米亞北	土耳其	希臘	英屬部	合衆國	墨西哥	巴西	智利	巴拉圭
八千	二千	二千〇四十一	二千〇三十一	二千〇四十一	四萬四千	二萬二千	二萬二千	二千五百	八千
		七十六	三十四	七十六		六十七	六十七	五	
		二千二百	五千〇五十二	二萬六千〇四十九		七百七十五	七百七十五	二百三十	

○第三 五大洲形勢表略

洲名	里方	人口
亞細亞	千九百七十一	六千億
阿非利加	千七百九十八	六百十億
歐羅巴	九百六十一	二千六百二十億
北亞米利加	千四百十四	四百億
南亞米利加	千二百七十五	百七十億
大洋群島	千〇六十	六百十億

○第四 英國屬藩形勢表略

洲名	國名	首府	里方	人口
歐	ヒリゴーランド		壹	二千二百三十
羅	日巴拉太		半里	一萬五千
巴	馬他諸島	ハレツタ	五	十二萬八千三百六十一
阿	ヨニアン	ユルフユ	十六	二十三萬〇五百
阿	岡比	バソルスト	二	四千八百五十一
阿	塞拉略尼	フリータウ	八	五萬五千

洲名	國名	首府	里方	人口
非	金濱領		三十八	四十萬
利	亞森島	ジフルダ	三	四百
利	サントヘレナ	セーヌ府	三	七千
加	喜望岬屬	炭林府	二百二十三	四十萬六千
加	マドリマス諸島	ホルトルイ	十四	十六萬八千九百二十
亞	亞丁		壹	二萬
亞	英屬印度	カリカッタ	四百五十四	千三百十九億九萬〇九百
細	英護印度		三百三十四	四百〇九億四萬八千七百三十五

西海月録 卷之四 形勢表 十一 三ノ戸食積才

西洋諸島金 後編卷之四 形勢表 十二 天保銀譜本

米			亞			亞	
新蘇蘭 フレシ甲	三ツル島 ウヰキ	加拿他 ニウ、ブルニス	新著島 シントジヨ	香港 ホルトヨーク	錫蘭 コロンボ	錫蘭 コロンボ	錫蘭 コロンボ
ハリツクス	チアロツテ	クッタワ	シントジヨ	ビクトリア	七十六	七十六	七十六
七十二	二十三	二百九十九	九十四	二	二	二	二
三十一萬一千百七十七	六萬二千六百七十七	二百五十萬	十萬	二萬九千五百四十七	百五十萬	百五十萬	百五十萬
		十九萬四千					

洋		大			加			利
タスマニア	澳太利亞 ラウスタリア	ラバン及サ ラワツク	諸島 ハイクラント	英屬亞阿部 ガフルヂ府	西印度 西班牙府	英屬ホドマ ハリース	バルミユダ ハミルトン	
ホーバルト府	シデニー		スタンリー港	ガフルヂ府	西班牙府	ハリース	ハミルトン	
八十	八百六十六	二	五十	百三十七	五十七	六十九	八	
七萬〇百六十四	九十一萬九千九百十七	九一萬二千	五百	十六萬三千	八十二萬〇七百九十二	一萬〇七百	一萬五千	

西洋諸島金 後編卷之四 形勢表 十二 天保銀譜本

島	群	新西蘭	二百五十八十七萬
ノルホルク	アウクラント	六	未詳
		一	未詳

西洋聞見錄後編卷之四 大尾

書西洋聞見錄後編後



余嚮序前編。又閱後編。嘆曰。美哉西
 洋。治期文明。風重篤實。弊習日去。
 紀綱日新。會議公論。安生君而利
 民。不若私於上下之間。苟舍華夷之
 私見觀之。豈可不謂善國哉。抑世
 之望西洋者。反為西洋之賊。何哉。
 孟子曰。服堯之服。誦堯之言。行堯之行。

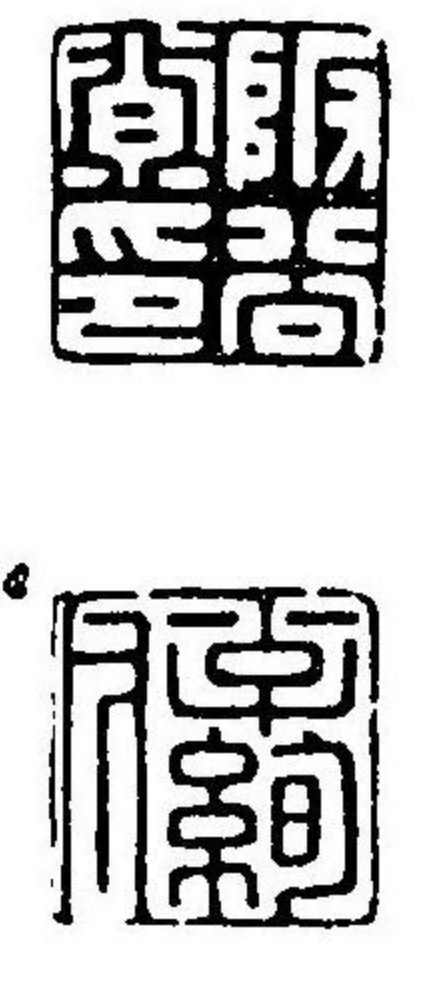
是堯而已矣。孟子素尚以重行而不
在服與言。不然。堯服堯言而行則桀紂。
其誰謂之堯。故陽貨面似孔子。而為孔
子之賊。王莽制度辭令學周公。而為周
公之賊。今學西洋者。尋常器服語言。悉
摸西洋。一曰西洋。二曰西洋。而空行則
放逸無賴。奢侈偷惰。害人心。亂風俗。
皆西洋所太禁。而其女奴隸類我。皆

徒者之所為也。夫學姦克奴隸之所為。
而犯其所太禁。而曰學西洋。謂之洋
學之陽貨王莽。豈不可哉。且至其甚。
則曰西洋多債。故強。西洋奢侈不蓄儲。
故富。未嘗知重蓄儲用財之嚴。
又未嘗知重財法公正多債而強之故。
施然。外欺人。內自欺。聊自便。而不思誤
國家之大計。其為甚者。則至以聖之

之教為迂闊不適用而問其於奉則
 又不信耶中。蘊唯師心安作而已。夫人倫
 之教者。皇國神聖所立以
 經緯人紀也。而頑然置之不顧。於耶中蘊
 教亦不信奉。是在我可誅。在彼亦可誅。
 天地間無容之人非耶。且洋學未開
 為之者。忠信篤敬。去小過失。猶宜恐
 致人之不信。而比如彼。使人謂洋學果

賊人害國。嗚呼。豈非可戒之大者哉。余
 恐讀此書者。或臨此弊。以中名文夫之
 苦心也。於是乎。再書中之後。
 明治三年仲秋

廣島島高客士朗庵素撰并書



西洋聞見錄 四冊 既刻

同 後 篇 四冊 同

海軍圖識 三冊 同

西洋沿革圖說 一冊 近出

洋語音譯筌 卷數未定 近刻

和 洋 度量比表 卷數未定 同

明治四年春正月官許

廣島播摩屋町

井筒屋勝次郎

西京三條通御幸町

吉野屋仁兵衛

大坂心齋橋北久太郎町

河内屋喜兵衛

東京芝神明前

岡田屋嘉七

同日本橋通二丁目

山城屋佐兵衛

書林

弘通

3
4
139

